

東京都立大学 都市環境学部 観光科学科

東京都立大学 大学院 都市環境科学研究科 観光科学域



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

ANNUAL REPORT

Department of Tourism Science, Tokyo Metropolitan University





TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

ANNUAL REPORT 2023



東京都立大学 都市環境学部 観光科学科

東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

1 Staff スタッフ紹介

2 Research Summary 研究概要

- 02 2-1.自然環境マネジメント領域
- 05 2-2.地域計画・マネジメント領域
- 11 2-3.行動・経営科学領域

3 Research Result 研究成果

- 14 3-1.自然環境マネジメント領域
- 17 3-2.地域計画・マネジメント領域
- 20 3-3.行動・経営科学領域

4 Specific academic research 特定学術研究

- 22 4-1.自然環境マネジメント領域
- 23 4-2.地域計画・マネジメント領域
- 25 4-3.行動・経営科学領域

5 Student education 学生教育

- 26 5-1.所属学生
- 5-2.研究室への配属
- 5-3.学位論文
 - 博士論文
 - 修士論文
 - 学位論文

6 Social contributions 社会貢献

- 30 6-1.自然環境マネジメント領域
- 31 6-2.地域計画・マネジメント領域
- 33 6-3.行動・経営科学領域

7 Awards, etc. 受賞等

- 34 7-2.地域計画・マネジメント領域

01 Staff スタッフ紹介

自然環境・マネジメント領域



Shinya NUMATA

沼田 真也
教授

学位 博士（理学）・東京都立大学
専門 熱帯生物学、都市生態学、
自然保護地域管理



Takaaki NIHEI

仁平 尊明
教授

学位 筑波大学
専門 地理学



Takeshi OSAWA

大澤 剛士
准教授

学位 博士（理学）・神戸大学
専門 生物多様性情報学・生態系管理学・
保全科学



Etsuro TAKAGI

高木 悦郎
助教

学位 博士（農学）・東京大学
専門 森林動物学、個体群生態学、
ナチュラリスト



Yuki SAKAMOTO

坂本 優紀
助教

学位 博士（理学）・筑波大学
専門 人文地理学（観光地理学、文化地理学）

地域計画・マネジメント領域



Tetsuo SHIMIZU

清水 哲夫
教授

学位 博士（工学）・東京工業大学
専門 交通学、観光政策学、観光計画学



Susumu KAWAHARA

川原 晋
教授

学位 博士（工学）・早稲田大学
専門 観光まちづくり、観光地域マネジメント、
都市・地域デザイン



Yu OKAMURA

岡村 祐
准教授

学位 博士（工学）・東京大学
専門 都市デザイン、都市計画、観光まちづくり、
観光地域史



Yuki OHIRA

大平 悠季
助教

学位 博士（工学）・神戸大学
専門 土木計画、交通計画、
都市・地域計画



Tomoyuki MASHIKO

益子 智之
助教

学位 博士（建築学）・早稲田大学
専門 都市計画学、まちづくり、
都市デザイン、復興デザイン学



Norie HIRATA

平田 徳恵
特任助教

学位 博士（観光科学）・首都大学東京
専門 地域ブランディング、観光地域づくり、
空間デザイン、環境色彩



Nguyen Van Truong

Nguyen Van Truong
Specially Appointed Assistant Professor

学位 PhD in Tourism Science,
Tokyo Metropolitan University
専門 Transportation, Tourism Behavior,
Big data

行動・経営科学領域



Kenro AIHARA

相原 健郎
教授

学位 博士（工学）・東京大学
専門 情報工学、行動把握・行動変容、
サイバーフィジカルシステム、
クラウドセンシング



Katsuya HIHARA

日原 勝也
教授

学位 博士（経営学）・筑波大学
専門 ミクロ経済学、経営学、観光政策、
交通政策



Yohei KURATA

倉田 陽平
准教授

学位 米国メイン州立大学
専門 観光情報学、空間情報科学



Wu Lingling

Wu Lingling
准教授

学位 博士・広島大学
専門 観光マーケティング



Yu OGASAWARA

小笠原 悠
助教

学位 博士（工学）・弘前大学
専門 社会システム工学

熱帯雨林の野生生物観光

沼田 真也 Shinya NUMATA

熱帯雨林を訪れる観光客の多くは野生生物観光に対する関心や期待は大きいものの、通常、熱帯雨林では野生生物は密度が低く、夜行性のものが多いため、観察するのは簡単ではない。そのため、野生生物と観光客との接点は小さく、野生生物観光としての満足度はあまり高くない。そこ

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

で、東南アジア熱帯雨林において、野生生物の生態学的研究手法を活用した観光アトラクションプログラム（バーチャルハンティングプログラム：VH）の開発を進めている。2023年度はエンダウロンピン国立公園においてカメラトラップのデータベース化を進めつつ、実証実験を

行った。また、エンダウロンピン国立公園およびタマンネガラ（国立公園）の公園管理者や森林局の関係者とVHの事業化について議論を行った。

国産蜂蜜の生産量に関する研究

沼田 真也 Shinya NUMATA

蜂蜜生産は、養蜂家がミツバチや植物といった自然資源を利用して蜂蜜を採取する活動である。近年は、観光目的や趣味で養蜂を行う養蜂も増加しているが、その蜂蜜生産に影響を及ぼす要因についての研究は限られている。本研究では、日

本国内の蜂蜜生産における現状を明らかにすることを目的とし、1) 全都道府県の蜂蜜生産に関するデータ集計状況及び、2) 国内蜂蜜生産量、蜜源面積、蜂群数の時間的推移、空間的特徴について検討した。その結果、日本の蜂蜜生産に関する

データは、全国統一で行われる報告依頼があり、一定のデータの蓄積があることが明らかとなった。一方で、いくつかの都道府県においては蜜源面積と蜂群数と蜂蜜生産量の間に有意な相関関係がみられた（那珂知美 修士論文）。

国内の国立公園で行われた学術研究活動の特徴

沼田 真也 Shinya NUMATA

国立公園は、自然公園法に基づく制度（自然公園法）により、自然の保護や適切な利用が図られている保護地域のひとつである。国立公園では多くの研究者が活動を行っており、様々な学術的、科学的な知見が集積され、これらの一部は、観光にも活用されている。しかし、国立公園においてどのような学術研究活動が行われ、活用されているかはほとんど分かっていない。本研究では、日本の国立公

園で行われてきた学術研究活動の特徴を明らかにするため、学術研究活動の指標として科学研究費助成事業（研究費）データベースに注目し、国立公園の地域で行われた科研費の研究プロジェクトを研究活動を分析した。その結果、国立公園で行われた研究プロジェクトの件数は、国立公園間で大きく異なっていた。国内の国立公園における学術研究活動の特徴は、全体的に理系が多いが、一

部では文系が多く行われており、年変化の傾向も国立公園間で異なった（京野由依 卒業論文）。

自然史資料に基づく生物多様性情報学

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

標本や観察情報、市民参加型調査等、必ずしも厳密な調査デザインに基づいて取得されたわけではない各種自然史資料の収集、整理、さらには有効な利用方法についての検討を行っている。本年度は、近年急速に分布を拡大し、農業被害、生態系被害、さらには人獣共通感染症をも引き起こしているニホンジカを対象に、リモセンプロダクトを用いた数値シミュレーションと自動撮影カメラによる観測を組み合わせることで、シカは季節に応じて行動パターンを変化させること、

さらに、それをある程度シミュレーションによって予測できること (Osawa et al. 2023 Sci. Rep.) を示した論文を公表した。

自然の恵み「生態系サービス」の視覚化、定量に向けた研究

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

自然環境、半自然環境から得られる人間への利益を「生態系サービス」という。生態系サービスには既に人間が認識し、積極的に利用しているものから、いまだ人間が気づいていない潜在的なものまで多種多様なものがあると考えられている。これら

生態系サービスについて、潜在的な価値の捕捉、認識されながらも定量評価がなされていないサービスの定量化に向けた検討を行っている。本年は農地を対象に、その主目的である食料生産機能(供給サービス)を高めるために行われる圃場

整備は、意図せずして基盤サービスが高い場所で優先的に行われ、結果的にサービス間のトレードオフ関係を助長してしまっていることを示した論文 (Osawa 2023 Ecol.Res.) を公表した。

都市域における生物多様性

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

人間活動により改変させた生態系である都市生態系は、地域の生物多様性に貢献している場合が多い。多摩地域を中心に、都市域生態系が持つ生物

多様性保全の役割を検討している。本年は、都市河川・農地においてもしばしば生息しているゲンジボタルは、必ずしも現状の環境のみに生息が担

保されるわけではなく、過去の土地利用履歴の影響も強く受ける可能性を示した論文 (浮田・佐藤・大澤 2023) を公表した。

昆虫の個体群動態と観光の関係

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

昆虫は、膨大な種数、個体数、および生物量を誇り、地球上のあらゆる地域に生息し、生態系において様々な重要な役割を担っている。また、世界中で一般的に認知度や好感度の低い生物であり、日本を除いて観光対象となることはほとんどない。昆虫が持つ特徴の一つに、高い生態系エンジニア

リング能がある。様々な昆虫が、劇的に生態系を変化させる。最近、この昆虫の生態系エンジニアリング能による生態系改変が、人間に与える文化的影響が注目されつつある。しかし、観光に及ぼす影響に関する知見はほぼない。そこで本研究課題では、特に、昆虫の生態系エン

ジニアリング能に注目して、1) 昆虫が大発生する要因、および2) 昆虫の大発生が起こった際に観光に及ぼす影響を明らかにすることを目的として、野外調査、野外実験、および室内実験を行っている。今年度は、2報が査読付き国際英文誌に掲載された。

音楽実践と資源化に関する地理学的研究

坂本 優紀 Yuki SAKAMOTO

本研究では、富山県南砺市を事例地として、音楽やそれに関係する事からミュージッキング musicking の概念で捉え、音楽と地域の関係を検討した。その際、音楽実践と音楽の地域資源化のプロセスに着目することで、両者の関係性

を実証的に明らかにした。その結果、音楽と地域の関係性の構築には、住民による地域的有用性の認識、すなわち地域資源としての音楽の活用が重要となることが確認された。また、音楽を地域資源として活用する際にはバナ

キュラーな音楽やその関係者を取り込むことで、より地域に根差した音楽実践として認識されることが示唆された。

ワインを活用した地域振興策の検討

坂本 優紀 Yuki SAKAMOTO

本研究は、近年、ワイナリーの創業が多い長野県を対象に、ワインを地域資源として活用した行政の地域振興策とツーリズムの現状を報告した。長野県では信州ワインバレー構想を2013に計画し、ワイナリーの創業や広報活

動に力をいれてきた。2023年には信州ワインバレー構想2.0として新たな目標を設定し、観光や地域づくりへの広がりを目指している。長野県のこうした動きと呼応するように、県内の市町村でもワインを資源とした振興策が増加

し、各地でワイナリー創業やワイン用ブドウの栽培地が増加している。さらに、ワイナリーの創業によりワインを資源とした観光も活発化しており、第一次産業から第三次産業に渡る活用がなされていることが示された。

八王子芸術祭の地域的影響

坂本 優紀 Yuki SAKAMOTO

本研究は、2022年から2023年に実施された八王子芸術祭の地域との接点や住民からの評価を検討した。八王子芸術祭は、市内を5つの地区にわけ、2022年から2年ごとに各地区を巡る芸術祭である。2022年および2023年は市の西部に位置する高尾地区と恩方地区

にて自然をテーマとしたイベントが多数展開された。調査の結果、高尾地区や恩方地区の自然資源を用いた取組みが行われ、来訪者が地域の自然を理解することに寄与したことが示された。また、来訪者へのアンケート調査からは、市内からの来訪が多く、おおむね高い

評価を得ていることが明らかとなった。一方、地域住民の参加に関する課題も抽出され、今後の開催に向けより多くの住民を巻き込むような方策が望まれる。

人流ビッグデータを用いた観光・交通政策の評価手法に関する研究

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU 大平 悠季 Yuki OHIRA Nguyen Van Truong

人流ビッグデータを利用して、観光や交通の政策効果を評価する手法開発に資する次の研究を実施した。(1)自転車プローブデータを活用して、東京都内の複数自治体における統計モデルの推定を通じて、街路区間の自転車利用数に影響する道路構造や沿道環境の要因を把握した。

(2)携帯電話で補足される滞在人口データを活用して、地域の居住者と訪問者が排出する廃棄物の原単位を推定する方法論を新たに提案した。(3)携帯電話で補足される滞在人口データを

活用して、大規模イベントである長岡花火大会を事例に取り上げ、その開催による地域内地区の時間帯別人口滞在の変動傾向を把握し、イベントが来訪者数増加に及ぼす影響を把握する方法論を新たに提案した。

持続可能な観光地域経営の体系確立に向けた研究

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU 大平 悠季 Yuki OHIRA 原野 恵子 Keiko HARANO

持続可能な観光地域経営の体系を確立することに繋がる次の研究を実施した。(1)DMO等の地域観光振興組織による観光地域づくり活動等の非営利事業が地域社会に与える経済的イ

ンパクトを推計する方法論の開発に向けて、八ヶ岳南麓エリアを分析対象に、社会的投資収益率(SROI)の有効性を分析した。(2)指標に基づく持続可能な観光地域経営のための評価フ

レームとその地域実装に必要な人材・組織のあり方を検討し、我が国に適した評価システムとそれを構成する定量指標群、人材育成のための講座カリキュラムを提案した。

観光地域の公共交通経営・運用に関する研究

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU 大平 悠季 Yuki OHIRA

観光地域における公共交通サービスの経営や運用に資する次の研究を実施した。(1)北関東地域を対象にデマンドバスのサービス形態に関して統計分析に基づいて類型化を行い、それに影響を

与える地域特性について分析した。(2)観光地における公共校乗り継ぎ時の待ち時間の負担感を軽減する方策の経済的価値を推定するため、に、仮定の観光地とバス路線網を対象としたアン

ケート調査を実施し、コンジョイント分析を用いて乗り継ぎバス停での施設やサービスに対する支払意思額を推定した。

観光まちづくりに資するイベント・レガシーの戦略的形成

川原 晋 Susumu KAWAHARA 益子 智之 Tomoyuki MASHIKO

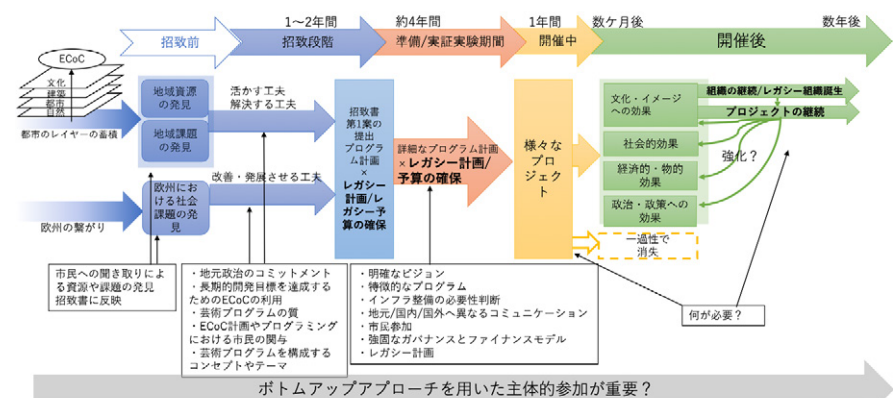
観光を手段として多様な産業振興やコミュニティ形成、地域課題解決をめざす「観光まちづくり」を推進するには、公益的視点から、短期的効果に留まらない成果をめざして戦略的に取り組むことが重要である。

本研究は、行政やDMO、事業者が最も一般的に取り組む観光事業のひとつである観光イベントやツアーの開催を契機として、都市・地域に中長期的に生じる良い影響や有形無形の資産であるイベント・レガシーを戦略的に生み出すための政策論、計画論、マネジメント論を構築するものである。

2023年度は、EUが指定した都市で一年間にわたり集中的に各種の芸術・文化行事を展開する「欧州文化首都(ECoC)」事業のうち、レガシー計画や予算、レガシープログラムを有し、まちづくりに繋がると考えられるボトムアップ型のプログラムを強調する都市に着

目した。特に2018年にオランダのレーワルデンで行われたECoC事業を調査し、大規模な芸術文化イベントから生み出すことが可能なレガシー要素の抽出や、

準備段階から開催年度、その後の展開までのプロセスデザインや計画論的視点での要点を整理した。



欧州文化首都 (ECoC) のレガシー内容とその形成プロセスの仮説図 (文献調査より)

八王子中心市街地のフロートビジョン「景観絵本」の作成と実現にむけたアクション

川原 晋 Susumu KAWAHARA

八王子駅周辺の中心市街地の魅力を高める景観づくりに向けて、地域観光プランニング研究会(研究代表:川原)が提唱するフロートビジョンとその実現にむけたアクションの手法を適用した実践研究である。

行政計画に位置づけることや事業性を棚上げする一方で、多くの人が関わりたい投資したいと共感が得られる将来空間像や活動像を「フロートビジョン」としてビジュアル化し、その実現にむけた迅速なアクションを公民連携で取り組む方法である。川原が全体ディレクターとなり、八王子市まちなみ景観課との共同研究として進めた。2021年度は、専門家で構成される景観デザイン会議と、市民ワークショップの両輪で議論を重ね、中心市街地のモデルとなる10箇所の将来像を、スケッチとやさしい言葉で描いた「景観絵本」を作成し、発行した。2022

年度、2023年度は、そのスケッチの実現に向けて川原研が2つのアクションを起こした。1つは公共空間や店先空間の地植え植栽を推進する「アシナミドリ」、2つめは、花街エリアで推進されてきた黒堀景観を活かして、さらなる修景と誘客をねらう「黒堀キャンパス」である。どちらも、社会実験として地域

の市民や事業者と一緒に現場で試行し、次年度の展開に向けた課題の抽出や、継続のためのチームや資金の仕組み作りをすすめた。詳細はHPへ。

<https://www.comp.tmu.ac.jp/ssm/study/project/floatvision-of-Central-hachioji.html>



宿泊事業者主導の観光まちづくり研究

川原 晋 Susumu KAWAHARA

個人旅行時代の旅行者ニーズやコロナ禍を受け、地域に根差した先進的な宿泊事業者は、自身の宿泊事業の再生だけでなく、施設外の地域事業に投資したり多様な事業者と連携して、温泉街全体や周辺広域エリアの魅力づくりに取り組んでいる。そこには「観光を包含する地域のビジネス・エコ

システム」を支える地域インフラとしての宿泊事業者の役割を見出すことができる。本研究はこうした視点で、宿泊事業者主導の観光まちづくりのあり方を探求する研究である。

2023年度は、天童温泉の複数の宿泊事業者が連携して設立したDMCの取り組みを調査し、旅館がもつ多様なリソースを活かして、遊休不動産活用

や農家等と連携した観光ツアー事業を、事業採算性と地域貢献性のバランスをとりながら進める状況を明らかにした。

また、全国の温泉街の法定河川区域内の堤防や河川敷などを観光コンテンツとして活用する可能性を調査し、宿泊事業者が管理活用する可能性を考察した。

プロジェクターマッピング模型システムを用いた新たな地域解説展示・教育の方法の開発

川原 晋 Susumu KAWAHARA

近年、模型に多様な主題地図をプロジェクターで投影するプロジェクターマッピング模型システム(P+MMシステム)が博物館等で導入されている。投影する画像はPCで自由に作成できるので多様な活用の仕方ができるはずであるが、各地での利用の現状は、投影コンテンツの更新はあまり行われず、一方的な解説展示ツールの域を出ていない。そこで、リアルタイムに模型に書き込み投影をしたり、多くの人がコンテンツを作成し、持ち込み投影できるような利用方法が可能になるように、P+MMシステムのメーカーと共同研

究をすすめ、民間ガイド等も活用できる解説展示ツールとして新たな利用や教育ツールとしての活用方法を研究している。

2020年度は、観光科学科の観光計画・デザイン演習において、学生が作成した主題図を投影し議論を行う方法を試行した。

2021年度は、八王子市役所との共同研究により、桑都日本遺産センター 八王子博物館の展示作品として、「八王子産食材でつくるお酒とおつまみ」を学生有志と制作した。この投影作品の特徴は、人々が興

味を持ちやすい「食事」を入り口に、八王子の日本遺産の構成文化財となっている資源やストーリーを表現した点である。また、この展示作品を用いて地元生産者が販促に活用できるようなワークショップ方法を提案した。

<https://www.comp.tmu.ac.jp/ssm/study/theme/Tourism-Applications-of-Technology.html>

大田クリエイティブタウンの構想と実践

岡村 祐 Yu OKAMURA

大田区は世界に負けない技術を誇るモノづくりと豊かで楽しい暮らしが重なり合うまちである。地域自ら持続的に価値を育む「クリエイティブタウン」という将来像実現に向けて、大学(東京都立大学、横浜国立大学)、観光協会、地元工業者等が中心となり2017年4月

に(一社)おおたクリエイティブタウンセンターを設立した。これをプラットフォームとして各種プロジェクトを展開している。2023年度は、日本建築学会での論文発表、工場期間限定で工場を一斉公開する「おおたオープンファクトリー」の企画のなかで、

工場の価値・魅力を見える化する「工場の磨き上げプロジェクト」への取り組み、工場やモノづくりを教育資源として活用する「ファクトリップ」などに取り組んだ。

都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性

岡村 祐 Yu OKAMURA

本研究は、「散策路事業(=散策路の整備・設定や、まち歩きイベントの開催)」が、健康、レクリエーション、モビリティ等、散策する市民のライフスタイルの変化から生み出されるプッシュ要因と、郊外・行楽地開発、自然・文化資源の保全活用、コミュニティ形成等、来訪者を受け入れる地域側が期待する環境形成につながるプル要因

から成り立つという仮説のもと、第一に、「散策路事業」の通史研究(時代区分と各時代の特徴解明)、第二に、特定地域における散策路事業の事例研究、第三に、「暮らし体験型散策路」の計画提案・実践・評価を研究課題として掲げている。2023年度は、これまでの研究成果を報告書として整理し発行した。

(<https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/records/2000361>) なお、本研究は科学研究費基盤研究(C)の助成を受けて実施した。

持続可能な観光地域計画技術の国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究

岡村 祐 Yu OKAMURA

ビジョンの構想から観光コンテンツの造成・提供、資源マネジメントまでを一貫通貫の方法として構築し、総体として持続可能な観光地域形成を目指す取り組みは各所で蓄積されている。本研究では、これを「持続可能な観光地域形成の計画技術」と呼び、海外から日本国内への国際的な技術移転と、国内での普及・伝播、当該地域同士の交流やネットワーク形成に着目する。移転元のオリ

ジナルモデルが、いかに移転先の固有の状況(政策/計画/環境/資源/産業等)を踏まえたものになっているのか(ローカライズされているのか)、そしてその技術知を共有する地域間の関係性が、いかに当該観光地域の持続可能性の向上に寄与するのかを検証する。さらに、上記の知見を踏まえて、温泉地の観光まちづくりやものづくり観光など、日本国内で独自に発展してきた「持続可能な

観光地域形成パッケージ」の海外への技術移転の可能性や、それに取り組む際の要点整理を行う。2023年度は、散策路事業に関する技術移転と国際交流に関する論文が日本造園学会オンライン論文集に掲載された。なお、本研究は科学研究費基盤研究(B)の助成を受けて実施した。

観光地リノベーション実態把握と計画的介入の可能性検討

岡村 祐 Yu OKAMURA 益子 智之 Tomoyuki MASHIKO

川原 晋 Susumu KAWAHARA

コロナ禍や戦争等の不測の事態に対して一定程度のレジリエンスを担保しながら、経済効果をはじめとする観光の地域への果実が空間的な改善につながるような持続可能な観光地域の形成を目指し、「観光地リノベーション」(既存観光地の漸進的改善)の計画論について検討する。すなわ

ち、空白地帯に大きく投資するのではなく、共通したビジョンに向かって小さな投資を積み重ねながら観光空間を改善していこうとするものであり、これまで検討してきた地域観光プランニングの理念や手法を基軸に、いかに計画的介入が可能なのかを検討を行う。本研究は、日本建築学会

都市計画委員会観光地リノベーション小委員会の一員として進めているもので、2023年度は、新任委員によるミニレクチャー、広島県福山市鞆の浦での学生WS、愛媛県松山市・大洲市・内子町等での合同視察を行った。

位置情報ビッグデータを活用した観光・交通現象解明

大平 悠季 Yuki OHIRA

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU

携帯電話ネットワークの運用データから生成された滞在人口統計や経路案内アプリケーションを通じて収集されたプローブデータなど位置情報に関わるビッグデータを用いて交通現象・観光現象の解明を試みた。具体的には、(1)自転車プローブデータを活用して、自転車利用者が選択してい

る道路の通行空間構造や周辺環境の特性を分析し、自転車通行空間整備に関わる基礎的知見を導出した。(2)1時間ごとの自治体別滞在人口分布統計を用いて、訪問者による廃棄物排出源単位を推定し、観光客と廃棄物量の関係を検討した。

DMOによる観光地域づくり活動の評価

大平 悠季 Yuki OHIRA

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU

原野 恵子 Keiko HARANO

観光地経営の舵取り役としてDMOが実施する諸活動や役割の中には、地域の事業者や関係主体のネットワークづくりなど、収益に直結しないものの中長期的な観光地域づくりにおいて重要な内容が含まれている。現状ではこのような活動を定量的に評価する方法が確立されておらず、DMO

関連政策の検証不備の要因の1つともなっている。本研究課題では、地域連携DMOの1つである八ヶ岳ツーリズムマネジメントが2021年に取り組んだ特定の事業について、社会的投資収益率(SROI)を用いて事業の社会的インパクトを定量化するSROI算定を試行した。

地方公共交通の実態調査分析と施設整備方策の検討

大平 悠季 Yuki OHIRA

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU

郊外や地方を中心に、バスなどの公共交通のサービス水準の維持が困難となり、運行頻度の低減やデマンド交通への転換などを実施している自治体が全国に散見される。本研究課題では、(1)首都圏からの観光客も多く訪れる栃木県・群馬県・茨城県の各自治体で導入されているデマンド交通のサービス形態を多角

的に調査した上で、地域構造との関係を分析した。(2)観光地へのアクセス交通としてのバスの停留所の設備と待ち時間に対する許容度の関係をSPアンケートにより推定した。

イタリア・アマトリーチェにおける大規模災害後のバールの移転と来店客の利用行動変化の分析

益子 智之 Tomoyuki MASHIKO

イタリア半島を縦断するアペニン山脈沿いの中山間地域は、都市部に住まう人々の観光地として発展しており、特に避暑地としての特性を有している。一方で、同地域は地震発生リスクが高い地域でもあり、2016年イタリア中部地震では4つの州にまたがる広い地域で人的・物的被害をもたらしている。本研究では、ラツィオ州アマトリーチェの

旧サラリア街道に面する集落のバールを研究対象とし、その移転の実態と来店客の利用行動変化の分析を行なった。2023年8月に現地調査を実施し、集落及び周辺地域に居住する住民のみならず、都市部に居住する二地域居住者のバール利用行動の特性を把握できた。二地域居住者らは、週末とパカンス期に集落を訪れ、自治活動にも貢献

しているが、応急住宅に入居できないため、所有する敷地内にセルフビルドを建設し、従前の生活行動を維持していた。人口減少が著しく進行する中山間地域の復興では、居住者のみならず、その地域に通う人々も含めた居住と生業の支援の必要性を論じた。

地域振興と災害伝承のための復興ツーリズムに関する研究

益子 智之 Tomoyuki MASHIKO

近年、様々な災害が世界各地で多発化・激甚化している。被災地域の復興では、人的・資金的リソースが被災者の住まいの再建と中長期的な社会・経済活動の再活性化に特化して投入され、災害伝承も含めたツーリズム構想は事後的に企画される。災害伝承の方法は、地名化・口伝・祭礼化・伝記化など古来からの方法に加

えて、近代以降の伝承館や祈念公園整備など施設化の傾向もみられる。本研究では、既往研究レビューと文献調査により、災害伝承の方法を体系的に整理し、観光の視点を取り入れた災害復興のあり方を論じた。本研究の成果により、災害教訓を伝える手段は、1) 語り、2) 証言集、3) 震災遺構、4) 石碑、5) 伝承施設、6) 記念

行事、7) 地名、8) 神社、として整理された。加えて、災害伝承に関わる取り組みを教育的エンジンとして位置付け、過去の災害復興での先進的な取り組みを評価した。

住民主体の観光地域づくり推進に向けた色の活用による地域学習プログラムの開発

平田 徳恵 Norie HIRATA

持続可能な観光地域づくり実現には、地域資源マネジメントへの地域住民の主体的な関わりが重要となる。住民による自主的なマネジメントを誘発するためには、まず、地域資源の学びが必要となる。本研究の目的は、色を活用した地域住民の観光地域づくり自分ごと化のためのプログラムの開発と実践およびその評価である。地域住民自らが地域資源について学び、抽出した色に資源の意味を付与し作成する地域色集を「地域色パレット」と定義し、最終的には、

地域住民が観光地域づくりの担い手へと成長するための手法として提案する。今年度は、世代やジェンダー、業種を超えて活用可能な色を入口とした新規的地域学習プログラムの開発に向け、昨年度、地域色の調査を行った千葉県夷隅郡御宿町において、地域住民の意識変容を引き起こす地域色パレット作成のためのワークショップを企画運営した。なお本研究は科研費若手研究の助成を受けて実施した。

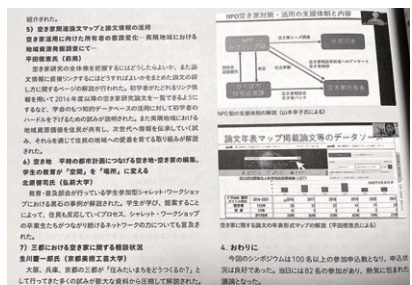


空き家の適切な活用に向けた学術的知見の情報発信

平田 徳恵 Norie HIRATA

日本建築学会の住まい・まちづくり支援会議では、学会として蓄積してきた学術的知見を、一般の市民や各種公共団体に向けて正確な知識を分かりやすく提供する方法について検討し、学会のホームページ等を通し情報提供等を行っている。情報事業部会においては、空き家の適正な利用および特定空き家等の危険な空き家への対処方法等について市民へ必要な知識を広く提供するため、これまでに、空き家に関する閲覧可能な公開論文を収集し、論文年表マップとして整理、

また学会員から空き家の制度概要や研究、好事例についての記事を収集した。これらの記事の査読や編集作業等により、2023年2月に「空き家ものがたり」と題するホームページ(<http://news-sv.aij.or.jp/shien/s2/akiya/index.html>)を公開した。今年度は、6月に当該ホームページ活用に向けた学会シンポジウムを開催し、副司会およびパネリストを務めた。



定点計測手法の高度化とデータ解析に基づく流動把握手法に関する研究

相原 健郎 Kenro AIHARA

本研究は、地域への流入と地域内での流動把握を各個体の動きの集約により実現する「ミクロ流動把握」の実現を目指すなかで進められているものである。ここでは自動車の流動に関して、その流動把握のために、都市の複数地点に設置するカメラによる車両認識とその記録・収集・解析の方法論の

提案と実現を目的としている。システムはネットワークカメラと処理用PCおよびデータ転送用のネットワーク機器で構成され、リアルタイムで認識結果がクラウドに集約される。2023年度は、これまで道の駅などの交通の拠点に展開してきた設置場所を、地域観光の中心地にも拡大し、試行

を進めた。継続的な運用にて計測を実施し、動作安定性や精度、および、設置上の課題等を抽出するとともに、データ分析や活用法について、利用者視点での意見などを取り入れた検討を進めた。

観光・交通分野におけるリスク分配契約に関する研究

日原 勝也 Katsuya HIHARA

航空会社と空港の関係のように、異業種の主体間の関係の中には、対立関係と協調関係が共存する複雑で多面的な構造を有するものがあり、契約理論、ゲーム理論等の観点から興味深い。我が国でも、地方空港が航空会社と路線収入のリスクを分配する契約例が現れ(能登空港搭乗率保証契約(2003〜)等)、国交省も、羽田空港の発着枠の配分において、地方路線向け発着枠配分につき、両者

のリスクシェア等の協調内容を加味する事態も生じている(2012年〜)。空港のコンセッション契約においても、空港側と航空会社が需要変動リスクを共有する方式の着陸料を設定する例が見られる。

本研究は、空港と航空会社のリスク分配契約に関する先行研究を踏まえ、より一般的な状況へ分析の拡張を試みるものである。2023年度には、

DMOに代表される外部の旅行需要促進のための組織との連携について、上記空港と航空会社の関係に加味して、不完備契約理論・ゲーム理論の観点から、どのように旅客需要変動リスクを関係者間でシェアするリスク分配契約の構造化適切かについて、基礎的な分析結果を得た。

データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発

日原 勝也 Katsuya HIHARA 清水 哲夫(代表) Tetsuo SHIMIZU (PI) 小笠原 悠 Yu OGASAWARA 大平 悠季 Yuki OHIRA

地域観光地は観光現象や評価に関するデータを継続的に取得し、適切なマーケティングや資源開発につなげる必要があるが、そのためには特に狭域DMOの施策・事業立案に役立つ解像度の観光統計・データを整備する方法論を学として提案する必要がある。本研究では、延べ宿泊数データに特化し、国家観光統計、民間データ企業の滞在

人口分布データ、およびWifiパケットセンサーデータなどを組み合わせて、観光地内の属性別延べ宿泊者数をできるだけ細かい時空間解像度で推計する方法を開発する。その際、DMOの施策・事業ニーズを徹底的に洗い出し、その評価に必要な指標データと推計方法のPorto Folioを提示する。研究期間を4年とし、観光学、

交通学、地理学、経済学、経営工学を専門とする研究者6名による学際的なチームで研究を遂行する。本研究は、世界の観光統計研究に新しい視点と大きなインパクトを与え、DMOのデータ利活用人材層の強化・育成にも貢献する。分担者:兵頭哲朗(東京海洋大学)、矢部直人(東京都立大学)、杉本興運(東洋大学)、片桐由希子(金沢工業大学)

OTAデータを用いた宿泊価格の時空間構造の分析-コロナ禍における影響も踏まえて

日原 勝也 Katsuya HIHARA 小笠原悠 Yu OGASAWARA 鈴木祥平(東京工科大学) Shouhei SUZUKI

宿泊施設(ホテル・旅館)の価格データは、地域内経済分析にとり重要であり、オンライン旅行代理店(OTA)の表示価格があるものの、個別施設毎のデータが中心であり、一定の地域内の一定の期間をまとめたデータの形で地域内における時間空間構造を把握することが困難である。本研究では、代表的なOTA「じゃらん」が掲載する客室タイプ別宿泊価格の日次レベルの時系列データ等を取得し、

都県より細かな地域エリア(東京圏の都心、副都心、城東、城南など)の間におけるダイナミクスを捉えることを目指す。

具体的には、まず首都圏全体で時系列分析を行い、パンデミック前後の時間構造を把握する。次に、東京圏4エリアごとの週間平均宿泊価格を用いて、時間的に加え空間的な価格構造についてVARモデルを推計を実施済み。現在までのところ、パン

デミック後にグランジャー因果関係が変化し構造転換の可能性が示唆され、インパルス応答分析により、都心部におけるパンデミック期間中の禁煙ダブルルームの値上げショックの城東と城南への影響は、以前に比べより大きな影響を一定期間与えることなどが明らかになり、実務者にとり有益な成果が得られている。協力学生:根本健吾、木崎誠史

観光の地域経済の非対称性に対する影響に関する分析

日原 勝也 Katsuya HIHARA

観光客の流入による宿泊や飲食の活動により、地域の経済は、所得、投資、産業、雇用など多面的な影響を受ける。特にインバウンドの急激な伸びは、コロナ禍までの我が国の地域経済に多くの影響を及ぼしていると考えられている。他方、観光の諸活動が、具体的にどの地位にどのような影響を及ぼし、地域間の差異はその影響によりどのよう

な変化を遂げるのかの分析は多くない。首都圏など都市圏と山間部の従来よりの差異（非対称）に、観光の諸活動はどのような影響を与えるのか、特に、インバウンドと国内観光客との間で非対称性にどのような影響を与えるかの研究はほぼ見られない状況にある。オープンデータを用いて、経済モデルを構築し、このリサーチギャップを埋めるこ

とに貢献することを試みる。これにより、我が国の観光活動のマクロ経済構造の解明と、インバウンドの伸びなどの影響を定量的に評価できることが期待される。協力学生：狩野佑季、鈴木美穂

コロナ禍における各種感染抑制策・技術状況等が旅行意向に与える影響の分析

日原 勝也 Katsuya HIHARA

本研究では、コロナ禍により多大な影響を受けた我が国の観光セクター（東京都民）を例に、緊急事態宣言等の感染抑制策がなされていた時期と緩和された時期とで、旅行意向を説明する要因分析を行うことで、感染抑制策の評価に貢献するとともに、将来にも起きる可能性のある新たなパ

ンデミックに対応するために必要な施策準備にも寄与することを試行する。併せて、コンタクトレス・タッチレスの技術が、ホテル等の利用者の利用意向に対する影響も定量的に評価することを試みる。これを通じ、実務者に対する有益な知見の提供につながることも企図する。併せて、年齢、

学歴、性別など社会属性を含めて分析することで、コロナ禍における各種感染抑制策などが、社会階層ごとの訪問意向・利用意向に与える影響について詳細な知見を得ることが期待でき、今後の各種施策に有益な知見を提示できる可能性がある。協力学生：竹中友麻、Dolgion Davaajargal

プライベートロッジング・シェアリング・サービス(Airbnb他)に関する研究

日原 勝也 Katsuya HIHARA

本研究では、シェアリングエコノミーのなかでも、プライベートロッジングのシェアリングサービス（民泊）について、webベースのプラットフォームを用いて世界に革新的な変革をもたらした、旅行のみならず宿泊分野においても、また、不動産賃貸分野においても大きな影響をもたらした、Airbnbについて、経営学、経済学、社会学、

情報学等他分野からの多くの研究論文について整理し、Airbnbのもたらす旅行者、ホスト、旅行業界、地域住民、地域社会等への影響や評価の方法論について、包括的に分析を行った先行研究等に基づき、我が国の状況等を加味して、より包括的な研究レビューとすることを試みているものである。非常に変化の大きいシェアリングエ

コノミーにおいても、安定的に拡大を続けているAirbnbをはじめとするハウジングスペースシェアリングについて、内外における最新の学術知見を整理し、今後の研究の課題等を明らかにすることが期待できる。協力学生：屋良英美絵

膨大なジオタグ付きツイートからの地域課題の検出

倉田 陽平 Yohei KURATA

「わざわざジオタグを付けて不満を述べているツイートは地域課題（観光関連のものも含む）を指摘しているのではないか」という仮説のもと、まず機械学習（BERT）によって独自の不満ツイート検出器を構築し、それを北海道内のジオタグがついた膨大なツイートに適用し、北海道内のジオタグ付き付き不満ツイートを目視確認したところ、割合は小さいものの確かに地域課題を指摘するツイートが散見された。一方でジオタグをつけな

から自宅や職場で日常的な愚痴を投稿しているツイートも多数見られた。そこで、日常的な愚痴ツイートの目視を回避すべく、あまりジオタグ位置が変化しない投稿者による投稿を無視し、対象地を沖縄に変えて膨大なジオタグ付きツイートを検証したところ、確かに地域課題を指摘するツイートが効率的に見つけられた。また、手法の一般化のため、独自の不満ツイート検出器の利用を回避すべく、地域課題指摘ツイートと感情

分析の結果との関連性を見たところ、地域課題指摘ツイートは感情分析でネガティブ判定を受けるものに多く含まれ、感情分析を使えば不満ツイート検出器を使わずとも地域課題指摘ツイートを効率的に検出できる可能性が示唆された。そこで、次は対象地を愛知県内に換え、ジオタグ位置の変わらない投稿者による投稿の無視、ネガティブ判定のツイートのみの目視確認を実施したところ、効率的な地域課題の検出に成功した。

ボランティアガイドを同伴する訪日外国人観光客等の東京・京都・静岡における観光消費行動

倉田 陽平 Yohei KURATA

旅行者の消費の実情が分かるデータはプライバシー保護の観点から入手しづらい。東京・京都・静岡のボランティアガイド団体に所属するガイドが主に訪日外国人観光客に同行した際に彼らの消費活動を記録した2017年頃のデータから、その

消費の実情を三地域で比較分析を行った。この結果、京都における訪日外国人等の一人あたり消費は食事以外は意外なほど少ないことや静岡では買い物消費額が大きいこと、東京では高額消費が行われる固有の店舗や地域があり、午

後出発の旅行者や銀座有楽町築地の訪問者は高額消費の可能性があることが明らかになった。京都での消費額が低い理由は神社拝観はじめ、種々の体験観光が安価ないし無償提供されていることが推察された。

宗教施設の観光対象化についての基礎的研究

倉田 陽平 Yohei KURATA

いにしえより各地に引き次がれてきた神社とそれになまつわる祭礼や鎮守の社は地域の伝統文化・自然両者の保全の要となる場である。もし観光集客による経済効果によって神社の持続可能性を高めることができれば、伝統文化、自然の保全の両者に貢献できることが期待できる。そこでまず、

観光の観点から成功していると思われる神社の洗い出しを行った。神社の観光対象化の判定基準として、①交通公社観光資源台帳への記載、②入場料の徴収、③神職の常駐、④ガイドブック出版社の観光資源データベース上に登録されていること、⑤鉄道事業者によるPRの五つを

考え、神社の諸要素との比較を行ったところ、特に神社の社格が判定基準④との相関性が極めて高いことを見出し、社格が神社が観光資源か否かを決定づける最重要要素であることを見出した。

意図せず観光できなかった経験の満足転化についての研究

倉田 陽平 Yohei KURATA

臨時休業や食材切れや気象条件等によって意図していたような観光ができないようなことは多くの人が経験のあることであろう。そんな意図せず観光できなかった人々の経験談やツイートを観察してみると、意外なことに不満や愚痴は少なく、あまつさえ、空いた時間に別の素敵な場所に偶然訪れたことを喜ぶ声すら散見される。

もし、観光提供者側にとって臨時休業せざるを得ない状況において、訪れようとしていた者たちの不満を回避することができれば、再訪の誘因や批判的クチコミの予防が期待できるはずである。そこで、意図せず観光できなかった人々の旅行形態と満足度について分析を行い、旅行目的が限定的で無い(旅行することが

まず重要)場合や同行者がいない場合に不満が抱かれにくいことを見出した。後者は、意図せぬ状況を独力で乗り越えたという自己実現によって説明できる。また、臨時休業の際は、代替訪問先の提案をするだけでコストをかけない不満回避策になることを提案した。

Youtube動画による観光プロモーションの評価

倉田 陽平 Yohei KURATA

まず、観光協会が公式チャンネルで出している動画の状況を五年前との比較評価を行った。観光協会の公式チャンネル数は大きく増加しており、動画によるプロモーションの浸透をうかがわせた。その一方で観光プロモーションに繋がるとは思えないウケ狙いの動画やウェブカム実況中継が再生数を大きく稼いでおり、再生数が観光プロ

モーションの評価指標と用いられる危険性も確認された。そこで、視聴者コメントに書かれた「行ってみたい」「訪れたい」といった願望表現に着目し、願望コメントの出現頻度とそれらへの他の視聴者によるリアクション(いわゆる「いいね」)をもとにした観光プロモーション評価指標を考案し、北海道の観光関連動画について検

証したところ、いわゆる旅行系Youtuberと呼ばれる投稿者による動画がプロモーション効果が高いという結果が得られ、Youtuberを招いてその地域の動画制作を促すような、いわゆる「インフルエンサーマーケティング」の妥当性が確認された。

観光客の感情の変化とその総合評価への影響の分析

Wu Lingling Wu Lingling

本研究では日本のテーマパークを対象とし、テーマパークでの観光体験に対する満足度を被説明変数、時間を重み付けした感情の大きさの総和、感情の大きさのピーク時と終了時の感情の大きさ、個人属性を説明変数とする順序プロビットモデルの推定により、観光体験の時間を考慮した感情の総和、感情のピーク時と終了時の感情が総合評価に与える影響について検証した。分析の結果、時

間を重み付けした感情の大きさの総和は嬉しい驚きが総合評価に対して負の影響を与えた一方、総合評価に対して楽しい、興奮のピーク時が正の影響、ピーク時の疲れたと終了時のがっかりは負の影響を与えることが確認された。これは、感情の種類によって総合評価に与える影響の与え方が異なる可能性が示唆している。以上の結果より、観光客が楽しいや興奮という感情を強く想起するポイン

トの設置は、総合評価を高める可能性が示唆されている。さらに、観光客が疲れのピークを感じない工夫や観光終了時にがっかりという感情を想起しないような工夫は、総合評価の低評価を回避する手段であると考えられる。本研究は観光客の感情と総合評価の関係性の解明に寄与し、テーマパークをはじめとした観光地経営と観光分野の発展に寄与するものであるといえる。

無形商品のマーケティングプラセボ効果の有効性に関する研究

Wu Lingling Wu Lingling

マーケティングプラセボ効果とは、「経験によって形成された消費者の期待が製品やサービスの評価に与える影響」を指す。このマーケティングプラセボ効果は、消費者の期待を高めて、サービスの効果や価値を上げることに使われている。これまで、有形商品のマーケティングプラセボ効果の研究(消費者の期待を高めることにより、実際に利用した時の効果や評価が変わる研究)は数多くあるが、無形商品のマーケティングプラセボ効果に関する研究は少ない。また、それらの研究は期待を高める因子(価格、成分の数など)を1つに絞った研究が多く、因子を組み合わせた研究は少ない。そこで、本稿では無形商品の期待を操作する因子を組み合わせたマーケティングプラセボ効果の有効性を分析した。具体的には、無形商品としてオン

ラインツアーを採用し、価格、成分、口コミ件数、希少性の4つの因子において、期待を高める説明とそうでない説明の2パターンに分けて、それぞれの因子の説明を組み合わせ、8通りの説明文を作成した。説明文を読んだ後に、オンラインツアーに関する評価をもらった。オンラインツアーの評価項目として「オンラインツアーに対するポジティブな感情」「オンラインツアーの満足度」「観光ロイヤリティ」「オンライン上での再訪問意向」「訪問意向」の5つを採用した。調査会社に依頼して2024年1月上旬に、Webアンケート調査にて832の有効なサンプルを収集し、順序ロジットモデルを用いて分析した。

その結果、希少性と口コミ件数に関してオンラインツアーの評価項目の「オンラインツアーに対す

るポジティブな感情」「オンラインツアーの満足度」「観光ロイヤリティ」「オンライン上での再訪問意向」「訪問意向」全てに対して正の影響を与えていることが確認された。また、価格においても「オンラインツアーの満足度」「観光ロイヤリティ」の2つに対して正の影響を与えていることが確認された。但し、希少性と口コミ件数の方が影響の強さが大きい。一方で、成分に関しては5つの評価項目全てに正の影響を与えていないことが確認された。

これらの研究結果から、無形商品のブランディングをする際に、口コミ件数、希少性、価格を強調することで、実際に商品を利用した後の評価を高めることができる可能性があることが示唆できる。

観光・ホスピタリティ産業における不確実性に基づいた意思決定手法の開発及び解析

小笠原 悠 Yu OGASAWARA

島へのフェリーと島内のレンタカーやアミューズメントパークの入場チケットとアミューズメントパーク内のレストランなど観光産業やエンターテインメント産業に多く見られる入れ子の需要構造において、サービス販売の促進及び総収益を最大化するバンドル商品の価格や商品数を求め

る収益管理問題を扱った。本年度では、小豆島への高速フェリーと小豆島内のレンタカーを事例としたアンケート調査を実施し、バンドル商品を購入する顧客の予約順序や、バンドル商品に対する予約価格の確率分布のパラメータを求めた。その結果、島嶼地域におけるレンタ

カーの季節による予約行動の変化に影響する因子を明らかにし、その因子の組み合わせによって、異なる予約行動を持つ顧客セグメントが定義出来ることを示した。

沼田 真也 Shinya NUMATA

学会発表

Riedel, M. J., 沼田真也, 田所喬 シネマー議論ワークショップ〜気軽に持続可能な生活を実現するために〜 クールセンター八王子 2023年12月

Numata, S. Challenges in nature management in human-dominated ecosystems. Tokyo Metropolitan University-Universiti Malaya Webinar on Sustainability Journey of City Campuses 2023. December 2023.

論文、図書・報告書

Suhaimi, A M, M. J. Kobayashi, A. Satake, C. C. Ng, S. L. Lee, N. Muhammad, S. Numata, T. Otani, T. Kondo, N. Tani, S. H. Yeoh (2023) An ecological transcriptome approach to capture the molecular and physiological mechanisms of mass flowering in *Shorea curtisii*. Peer J 11:e16368 <https://doi.org/10.7717/peerj.16368>

Kobayashi, S., E. Takagi, N. Hassan, M. Hashim, S. Numata. (2024) Impacts of human activity on wild mammal detection rates and diel activity patterns in Endau-Rompin National Park, Malaysia. Journal of Tropical Forest Science. 36: 80-90.

Susanto, D. and S. Numata (2023) Traditional Ecological Knowledge of the Tengger Tribe and its Influencing Factors in Bromo Tengger Semeru National Park. Jurnal Manajemen Hutan Tropika. 29: 254-264.

仁平 尊明 Takaaki NIHEI

論文、図書・報告書

1. Nihei, T., Tabayashi, A., Wahid, U. and Ahmed, Z. 2023. Problems of multivariate analysis in agricultural regionalization: consideration from the case of the Hokuriku region. "Geographical Space" 15(3): 191-208. DOI 10.24586/jags.15.3_191

5. Kagami, M. et al. 2023. General geography for high school students. (written in Japanese.) "Textbook for high school approved by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology." ISBN 978-4-8071-6583-4

2. Kikuchi, T., Suzuki, T., Nihei, T. Sakamoto, Y., Miyamoto, Y. and Kobayashi, T. 2023. Junken-dai-1-han Shizen-to-kyousei-suru-new-town-no-machi-dukuri Minami-oosawa-chiku-no-chousen. (written in Japanese.) "E-journal GEO" 18(2): 357-360. DOI 10.4157/ej-geo.18.357

6. Teikoku-shoin et al. 2023. "General geography for high school students: instruction material: instruction textbook." (written in Japanese.) Tokyo: Teikoku-shoin. ISBN 978-4-8071-6649-7

3. Suzuki, M., Zhu, Y. and Nihei, T. 2023. Strength of online tours from customer satisfaction perspectives: insights from text mining and emotional analysis of reviews (written in Japanese.) "JAFIT International Tourism Review" 30: 67-34. DOI 10.24526/jaft.30.0_67

7. Suzuki, M. and Nihei, T. 2023. Differences in ratings between online tour descriptions and participant reviews. (presented in Japanese.) "38th Annual Conference of Japan Institute of Tourism Research." Tokyo: Bunkyo University.

4. Kagami, M. et al. 2023. Social studies: geography of junior high school. (written in Japanese.) "Textbook for junior high school approved by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology." ISBN 978-4-8071-6478-3

8. Laboratorio de geografia. 2023. "Hokkaido atlas and gazetteer 0.31 Figure 1 Hokkaido." Tokyo: Laboratorio de geografia. DOI 10.13140/RG.2.2.36342.16966

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

学会発表

1. 野田顕, 大澤剛士, 草原を代表する植物の整理と将来の活用方針の提案. 日本生態学会第71回大会. 2024年3月

4. 杉本昌武, 大澤剛士, 都市域における外来昆虫ヨツモンカメノコハムシの分布拡大要因. 日本生態学会第71回大会. 2024年3月

2. 中谷美晴, 野田顕, 大澤剛士, 草原生植物種の分布と日射量の関係. 日本生態学会第71回大会. 2024年3月

5. 島内梨音, 大澤剛士, 馬場友希, 杉本昌武, 大澤剛士, さとやまのくも. 日本生態学会第71回大会. 2024年3月

3. 観光地における文化的サービスの生成プロセス検証と価値評価. 日本生態学会第71回大会. 2024年3月

6. 盛拓貴, 大澤剛士, 周囲の音環境がキンヒバリの生息地選択に及ぼす影響. 日本生態学会第71回大会. 2024年3月

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

査読あり学術論文 太字は責任著者

Osawa T (2023) Overlap relationship between the priority of land consolidation and the floodplain wetland potential in paddy field. Ecological Research.

Yoshida K, Hata K, Kawakami K, Hiradate S, Osawa T, Kachi N (2023) Predicting ecosystem changes by a new model of ecosystem evolution. Scientific Reports 13:15353.

Osawa T, Tsutsumida N, Iijima H, Okabe K (2023) Prediction of the visit and occupy of the sika deer (*Cervus nippon*) during the summer season using a virtual ecological approach. Scientific Reports 13:4007.

解説記事等

大澤 剛士 (2023) 気候変動適応策としての農地を活用した防災・減災の現状と課題. 地球環境 28

大澤 剛士 (2023) シチズンサイエンスによる生物調査の理想と現実. 情報の科学と技術 73: 493-499.

浮田 悠, 佐藤 臨, 大澤 剛士 (2023) 東京都多摩地域南部におけるゲンジボタル *Luciola cruciata* の生息に及ぼす過去の土地被覆の影響. 保全生態学研究. 28: 137-145.

佐々木 翔哉, 大澤 剛士 (2023) 南多摩地域から世田谷区の都市公園に生息するホンダヌキの食性と人工景観の関係. 哺乳類科学 63: 69-85.

池田 健太郎, 飯塚 弘明, 佐藤 吉雄, 星野 啓佑, 新井 美優, 大澤 剛士 (2023) ドローンの空撮画像を活用したコンニャク栽培圃場における倒伏株割合の推定. 関東東山病害虫研究会報 70: 53-56.

大澤 剛士 (2023) 河川環境データベースのオープンデータ化. 令和4年度水源地環境技術研究所所報 71-76.

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

論文(査読付き)

Takagi, E. & Yamanaka, S. (2024) Reemergence and sister brood establishment in the bark beetle *Polygraphus proximus* (Coleoptera: Curculionidae: Scolytinae) under laboratory conditions. Applied Entomology and Zoology (in press).

Kobayashi, S., Takagi, E., Hassan, N., Hashim, M. & Numata, S. (2024) Impacts of human activity on wild mammal detection rates and diel activity patterns in Endau-Rompin national park, Malaysia. Journal of Tropical Forest Science, 36, 80-90.

Takagi, E. (2023) Colonization success of a tree-killing bark beetle: Geographic variation and mismatch with host preference. Ecology and Evolution, 13, e10274.

坂本 優紀 Yuki SAKAMOTO

論文(査読付き)

坂本優紀・鈴木修斗 (2024) : 長野県塩尻市におけるワインをめぐる行政の地域振興策, E-journal GEO, 19(1), pp.29-39.

Yuki SAKAMOTO (2024): Acceptance of a World Music Event in Fukuno, Japan, Geographical review of Japan series B (in press).

図書

吉沢直・坂本優紀 (2023) : 白馬村—北アルプス山麓高原の夏季リゾート—, 地理, 68(6), pp.24-28.

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU

学会発表

清水哲夫：最近の地域交通関連プロジェクトに専門家として参画して感じること，第68回土木計画学研究発表会地元セッション，東京都立大学，2023年11月。

東原実咲，小笠原悠，呉玲玲，清水哲夫：2012年～2019年を対象とした東京の観光公式サイト閲覧数によるベクトル自己回帰モデル，第38回日本観光研究学会全国大会，文教大学，2023年12月。

査読なし論文

東原実咲，小笠原悠，呉玲玲，清水哲夫：2012年～2019年を対象とした東京の観光公式サイト閲覧数によるベクトル自己回帰モデル，第38回日本観光研究学会全国大会論文集，2023。

目代風，東原実咲，小笠原悠，清水哲夫：観光地のブランドロゴマークの認知と旅行者特性の関係について，第38回日本観光研究学会全国大会論文集，2023。

目代風，東原実咲，小笠原悠，清水哲夫：観光地のブランドロゴマークの認知と旅行者特性の関係について，第38回日本観光研究学会全国大会，文教大学，2023年12月。

Nurzafrifah, D., Shimizu, T. and Nur Shuhadah, M.: Charting New Horizons in Family Tourism Entrepreneurship and Sustainability: Women in Business Succession, 2nd Gulf University International Conference in Accounting and Finance, Online, December 2023.

書籍

初めて学ぶ都市計画第三版(分担)，第6章：都市の再生と交通システム，市ヶ谷出版社，2024。

論説文

清水哲夫：共生社会づくりにおける観光の役割～その実現に向けて我々が考えること～，観光研究，Vol.34, No.2, pp.110-113, 2023。

清水哲夫：これからの地域インバウンド進行に必要な戦略～中小企業の立場から，企業経営，Vol.165, pp.8-11, 2024。

川原 晋 Susumu KAWAHARA

学会発表

千葉優美子，和田拓将，川原 晋，赤羽祐哉(2023)「人を惹きつける表現を優先させた将来ビジョン「景観絵本」の策定とその実現への試行 ―行政計画に位置づけけない八王子市中心市街地将来像の実現に向けた緑化と修景実験―」，日本建築学会大会学術講演梗概集2023(都市計画)(選抜梗概)，2023.09

中本夏生，川原 晋，内矢智貴，大谷明日香，小川史弥，菅原まどか(2023)「プロジェクトマッピング模型システムの観光・教育分野での活用に向けた実践研究 ―大学の演習教育と日本遺産センター展示コンテンツ制作を事例として―」，日本建築学会大会学術講演梗概集2023(都市計画)(選抜梗概)，2023.09

論文(査読なし) 論説

川原晋(2024)環境キーワード事典「観光地域づくり」(加除式書籍、2023年度追加キーワードとして執筆を担当)
環境法政研究会 編著，第一法規株式会社，pp.7301-7306，2024.02

作品

高尾山口駅前 案内川親水護岸および公園の一体整備 親水護岸 2023.06竣工 隣接公園 2024.03竣工，整備主体 東京都、八王子市（川原は整備計画ワークショップディレクター、設計施工アドバイザーとして参画）(写真あり)

プロジェクトマッピング模型展示コンテンツ『八王子産食材で作るお酒とおつまみ』，八王子市桑都日本遺産センター 八王子博物館(愛称:はちく)設置，2024.11

図書

Norie Hirata and Susumu Kawahara, "The status of Blue Flag in Japan: Can Blue Flag be used for beach community development as a sustainable tourist destination?",

山本大地，川原 晋(2023)「宿泊事業者主導による温泉街の面的再生のための店舗開業と景観整備 一月岡温泉の地元旅館経営者有志が立ち上げた合同会社ミライズの取り組みを事例として」，日本建築学会大会学術講演梗概集2023(都市計画)，2023.09

計画図書

景観絵本 改訂版
八王子駅周辺の未来の景観を考えるワークショップ、景観デザイン会議、編集発行 八王子市まちなみ整備部まちなみ景観課，2024.03，全文は八王子市HPで公開
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shi-sei/001/006/001/004/p027594.html>

イベントプロデュース等

黒堀キャンパス：花街らしい和の装飾による景観演出集客イベント 八王子まつり版(2023.08)、桑都テラスー周年記念版(2023.11)、二十歳の集い(2024.01)、ディレクター：川原晋，主催：花街黒堀キャンパスプロジェクト実行委員会+東京都立大学 観光科学科 川原研究室，協力：中町地区まちづくり協議会/桑都テラス/桜美林大学 ビジネスマネジメント学群 尾川ゼミ ヨコハチ∞ /工学院大学 建築学部 野澤研究室

岡村 祐 Yu OKAMURA

査読付論文

岡村祐・片桐由希子(2023):海外規範事例と国内展開組織の関係性からみた散策路事業の計画技術移転の特徴,ランドスケープ研究(オンライン論文集), 16, pp.133-140

論文

岡村祐・菅井純也(2023):市町村都市計画マスタープランにおける観光分野の方針・方策の記載状況,日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1(選抜梗概), pp.1159-1162

菅井純也・岡村祐(2023):空間・産業特性を生かした問屋街の都市更新手法に関する研究 ―横山町・馬喰町問屋街における同業者組織を中心とした取り組みに着目して―,日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1(選抜梗概), pp.237-240

神谷圭祐・岡村祐・野原卓・小嶋海輝(2023):工場一斉公開プログラム「オープンファクトリー」開催地における行政計画への反映状況に関する一考察,日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1(選抜梗概), pp.241-244

小泉勇真・的羽佑菜・三吉康太・安井健悟・山岸匠・神谷圭祐・野原卓・岡村祐(2023)中小工場集積地域における工場建築の外観特性に関する分析 大田区下丸子地域を対象として,日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1(選抜梗概), pp.245-248

山寄一也・岡村祐(2023):テレビ中継映像に臨海副都心の都市景観を映し出すために必要な東京五輪2020仮設競技会場の形状と配置のその工夫,日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1(選抜梗概), pp.1163-1166

渡辺安菜・岡村祐(2023):長野県戸隠における御師文化を活かした観光への取り組みとその文化継承への影響,日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1(選抜梗概), pp.1167-1170

林睦・岡村祐(2023):建築公開プログラムを通じたモダニズム建築の魅力発信手法に関する研究 ―オープンハウス型とネットワーク型に着目して―,日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1(選抜梗概), pp.1171-1174

報告書

岡村祐・片桐由希子(2024):都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性,科学研究費助成事業報告書

大平 悠季 Yuki OHIRA

論文、図書・報告書

大平悠季,ビッグデータと観光行動分析,土木学会誌, Vol.109, No.2, pp.16-17, 2024.

益子 智之 Tomoyuki MASHIKO

学会発表

阿部俊彦, 岡田潤, 益子智之, 山下博美. 歴史的な港町における防潮堤整備計画に伴う防災まちづくりの協議手法の開発, 第17回歴史都市防災シンポジウム, B2.水害・土砂災害(2), 立命館大学, 2023.7

Tomoyuki Mashiko, Development of provisional settlements and their conversion in inclusive recovery process: Diverse emergency architectures in town impacted by the 2012 Emilia-Romagna Earthquake, XXV Conferenza Nazionale SIU, Session 11 Progetto territoriale nelle aree fragili, Cagliari, 2023.6

Kensuke Otsuyama, Tomoyuki Mashiko, Haruka Tsukuda. Exploratory Comparative Study on Land Acquisition for Recovery in Italy, the United States, and Japan, i-Rec Conference 2023: Tensions Between Tradition and Innovation in Disaster Risk Reduction, Climate Action, and Reconstruction, Sendai, 2023.6

論文査読付

阿部俊彦, 岡田潤, 益子智之, 山下博美. 歴史的な港町における防潮堤整備計画に伴う防災まちづくりの協議手法の開発, 歴史都市防災論文集, vol.17, pp.91-98, 2023.7

益子智之, 佐藤滋. ラツィオ州アマトリーチェにおけるパールの時限的な移転と来店客の利用行動変化, 日本建築学会大会, 7463, 京都大学, 2023.9

益子智之, 益邑明伸. 1976年イタリア・フリウリ地震の被災地における被害建物調査記録の個票の特徴と活用可能性について, 第43回土木史研究発表会, 関東大震災100年および戦時下の土木, 北海道大学, 2023.6

Tomoyuki Mashiko. Development of provisional settlements and their conversion in inclusive recovery process: Diverse emergency architectures in town impacted by the 2012 Emilia-Romagna Earthquake, Atti XXV Conferenza Nazionale SIU, vol.11, 2024(掲載決定)

論文査読無

内野輝明, 佃悠, 前田昌弘, 大津山堅介, 益子智之, 岩佐明彦, 市川幹朗. 建築のローリングストック: 4寸材でつなぐ日常と災害, 建築雑誌, 日本建築学会, Vol.138, No.1779, pp.10-15, 2023.9

西成活裕, 牧紀男, 本間健太郎, 佃悠, 前田昌弘, 大津山堅介, 益子智之, 岩佐明彦, 植林麻衣. フローとストックをつなぐ: 渋滞学から読み解く防災, 建築雑誌, 日本建築学会, Vol.138, No.1779, pp.4-9, 2023.9

神原咲子, 大津山堅介, 益子智之, 佃悠, 前田昌弘, 平田美聡. 避難のシフトチェンジ, 建築雑誌, 日本建築学会, Vol.138, No.1779, pp.20-25, 2023.9

益子智之. 歴史都市景観保全とレジリエンス, グローカル時代の景観デザイン, 日本建築学会, pp.63-64, 2023.9

荒木笙子, 白石レイ, 益子智之. 主題解説③: 場所の意味と計画論への接続, 若手研究者による「復興」再考, 日本建築学会, pp.21-24, 2023.9

益子智之, 益邑明伸. 補遺: 委員会の議論の途中経過, 若手研究者による「復興」再考, 日本建築学会, pp.28-30, 2023.9

益子智之. 移転元地での集落再建とパールの「場所の意味」: イタリアの小さな村を事例として, 若手研究者による「復興」再考, 日本建築学会, pp.63-68, 2023.9

益子智之, 佐藤滋. ラツィオ州アマトリーチェにおけるパールの時限的な移転と来店客の利用行動変化, 日本建築学会大会(関西) 学術講演梗概集, 都市計画, pp.1015-1016, 2023.9

益子智之, 益邑明伸. 1976年イタリア・フリウリ地震の被災地における被害建物調査記録の個票の特徴と活用可能性について, 土木史研究講演集, vol.43, pp.205-210, 2023.6

図書

饗庭伸, 矢吹剣一, 中島弘貴, 加藤優一, 松田東子, 讃岐亮, 園田聡, 鈴木美央, 佐脇三乃里, 青木彬, 田中由乃, 葛西リサ, 白波瀬達也, 後藤純, 寺田光成, 田中純子, 益尾孝祐, 姫野由香, 西川亮, 佐伯亮太, 菅正史, 山崎嵩拓, 飯田晶子, 新保奈穂美, 益子智之, 稲垣具志, 村上早紀子, 榎原友樹, 鈴木達也, 安藤哲也, 竹内彩乃, 林憲吾. 都市を学ぶ人のためのキーワード辞典 これからを見通すテーマ24, 学芸出版社, 2023.9

平田 徳恵 Norie HIRATA

学会発表

平田徳恵, サステナブルな観光地域づくりの視点からのブルーフラッグの活用: 民間主導による海水浴場の認証取得活動に着目して, 日本建築学会大会学術講演会, 京都大学, 2023年9月

論文査読付

Norie HIRATA and Susumu KAWAHARA (2023): The Status of Blue Flag in Japan: Can Blue Flag be used for beach community development as a sustainable tourist destination?, Chapter19, "Blue Flag Beaches: Economic Growth, Tourism and Sustainable Management", pp.241-252, Routledge.

論文査読無

平田徳恵 (2023): サステナブルな観光地域づくりの視点からのブルーフラッグの活用: 民間主導による海水浴場の認証取得活動に着目して, 日本建築学会大会学術講演梗概集(都市計画), pp.629-630.

海津ゆりえ・平田徳恵・片山清宏 (2024): 国際環境認証「ブルーフラッグ」の地域経済に与える影響に関する国際比較, 湘南フォーラム: 文教大学湘南総合研究所紀要, 28号, 文教大学湘南総合研究所, pp.1-15.

図書

Edited By María A. Prats, Fernando Merino: "Blue Flag Beaches: Economic Growth, Tourism and Sustainable Management", The Status of Blue Flag in Japan: Can Blue Flag be used for beach community development as a sustainable tourist destination? (Chapter19: pp.241-252), Routledge.

Nguyen Van Truong Nguyen Van Truong

学会発表

"Development of Accommodation Statistics for Small Regions: Case of Japanese Destination Management Organizations (DMOs)", Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, Travel and Tourism Research Association: Advancing Tourism Research Globally, 2020, <https://scholarworks.umass.edu/ttra/2022/researchabstract/84/>

"Covid-19 pandemic and policy responses: Economic impacts from perspectives of the tourism industry", Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, TOURMAN 2021.

論文

Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, Kurihara Takeshi, Sun Kyung, "Accommodation Statistics: The Current Issues and an Innovation." Current Issues in Tourism, vol. 25, no. 11, June 2022, pp. 1731-47. Taylor and Francis+NEJM, <https://doi.org/10.1080/13683500.2021.1978951>

Vu Anh Tuan, Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, Nguyen Ngoc An, "Public Transport Service Quality: Policy Prioritization Strategy in the Importance-Performance Analysis and the Three-Factor Theory Frameworks." Transportation Research Part A: Policy and Practice, vol. 166, Dec. 2022, pp. 118-34. ScienceDirect, <https://doi.org/10.1016/j.tra.2022.10.006>

"An Analysis of Overtourism Policies in Cities by Combining Quantitative and Qualitative Criteria." Nguyen Van Truong, Daisuke Fukuda, Transport Policy Studies' Review, vol. advpub, 2022. J-Stage, https://doi.org/10.24639/tpsr.TPSR_24R_01

"Sample size and population total estimation of count data: Application in tourism statistics", Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, TOURMAN 2021.

[Conference paper] Nguyen Van Truong, Shimizu Tetsuo, "Development of Accommodation Statistics for Small Regions: Case of Japanese Destination Management Organizations (DMOs)", Travel and Tourism Research Association: Advancing Tourism Research Globally, 2022, <https://scholarworks.umass.edu/ttra/2022/researchabstract/84/>

相原 健郎 Kenro AIHARA

学会発表

佐藤 諒平, Sitkrongwong Padipat, 相原 健郎, 高須 淳宏: 音楽推薦におけるセレンディピティ向上のためのアーティストエンコーダ, 第16回 データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム 論文集, to appear, 2024年3月

Yuna Morita, Takehiro Yamamoto, Yoshiyuki Shoji, Hiroaki Ohshima, Yusuke Yamamoto, Noriko Kando, Kenro Aihara: Impressing museum visitors by having them answer questions toward the realization of an interactive viewing support system, Proceedings of the 2024 12th International Conference on Information and Education Technology (ICIET 2024), to appear, 2024年3月

Kaisei Nishimoto, Kenro Aihara, Noriko Kando, Yoshiyuki Shoji, Yusuke Yamamoto, Takehiro Yamamoto, Hiroaki Ohshima: A Gamification System for Acquiring Appreciation Perspectives in Museum, Proceedings of the 2024 12th International Conference on Information and Education Technology (ICIET 2024), to appear, 2024年3月

論文 査読付

Ami Tsuruoka, Hiroyuki Kadokura, Tetsuo Shimizu, Kenro Aihara: The Impact of Road and Urban Infrastructure Variances on Electric Kick Scooter Travel, Distributed, Ambient and Pervasive Interactions, to appear, 2024年6月

So Makita, Kenro Aihara: Toward Facilitating Going Out: on the Relationship between Residents' Outing Behavior and Cognitive Distance in Suburbs, Distributed, Ambient and Pervasive Interactions, to appear, 2024年6月

Fumika Kaburagi, Kenro Aihara: Toward Supporting Baggage-Free Walk-Arounds at Travel Destinations: Issues of the Hassle of Baggage During Travel, Distributed, Ambient and Pervasive Interactions, pp.18-34, 2023年7月9日

日原 勝也 Katsuya HIHARA

学会発表

Hihara, K., "Analysis of Airlines' Novel Business Model - Digital Platformer under the Multiple-sided Market," Proceedings (on-line) of the World Conference of Air Transport Research Society(ATRS) (2023年7月Kobe, Japan),

鈴木美穂、日原勝也、「宿泊消費需要が我が国の経済構造の非対称性に与える影響の分析」、第38回日本交通学会 研究報告会(愛媛大学、2023年10月) 予稿集 pp.41-48.

竹中有麻、日原勝也、「COVID-19に伴う制限措置と東京都民の旅行意向について」、第38回日本観光研究学会全国大会学術論文集(2023年12月) pp.21-30.

鈴木美穂、日原勝也、「観光消費による我が国の地域間の経済的対称性への影響に関する分析」、第38回日本観光研究学会全国大会学術論文集(2023年12月) pp.91-96.

論文 (査読付)

竹中有麻、日原勝也、「COVID-19に伴う制限措置と東京都民の旅行意向について」、第38回日本観光研究学会全国大会学術論文集(2023年12月) pp.21-30.

論文

Hihara, K., "Analysis of Airlines' Novel Business Model - Digital Platformer under the Multiple-sided Market," Proceedings (on-line) of the World Conference of Air Transport Research Society(ATRS) (2023年7月Kobe, Japan),

鈴木美穂、日原勝也、「宿泊消費需要が我が国の経済構造の非対称性に与える影響の分析」、第38回日本交通学会 研究報告会(愛媛大学、2023年10月) 予稿集 pp.41-48.

鈴木美穂、日原勝也、「観光消費による我が国の地域間の経済的対称性への影響に関する分析」、第38回日本観光研究学会全国大会学術論文集(2023年12月) pp.91-96.

図書 (査読付)

Hihara, K. forthcoming. "Towards Sustainability with Better Incentive Design: Updates about the Recent Development of Climate Change Mitigation in the Aviation Sector". In: Chen et al. (ed) Handbook of Climate Change Mitigation and Adaptation 4th ed., Springer, Switzerland, Editors Wei-Yin Chen, Maximilian Lackner.

倉田 陽平 Yohei KURATA

学会発表

西村憲人・倉田陽平, 電子スタンプラリーにおけるGPSやNFCといったスタンプ取得方式が参加者行動に与える影響の評価, 観光情報学会第25回研究発表会, 名古屋, 2024年3月

庄野貴人・倉田陽平, 意図せず観光できなかった経験の満足度とその経験に対する対応策の提案, 観光情報学会第25回研究発表会, 名古屋, 2024年3月

倉田陽平・堀健一朗, 膨大なジオタグ付きツイートから愛知県の地域課題の効率的検出, 観光情報学会第25回研究発表会, 名古屋, 2024年3月

倉田陽平・堀健一朗, 膨大なジオタグ付きツイートから沖縄等の地域課題の効率的検出 情報処理学会第86回全国大会, 横浜, 2024年3月

倉田陽平, ボランティアガイドを伴する訪日外国人観光客等の京都での観光消費行動 観光情報学会第24回研究発表会, 京都, 2023年10月

倉田陽平・吉田伊武貴, 膨大なジオタグ付きツイートから見る道内各地の観光行政の課題 観光情報学会全国大会第19回全国大会, 江別, 2023年7月

猪口あゆな・倉田陽平, 音楽観光の現状俯瞰と課題～英国・リバプールでの事例～ 観光情報学会全国大会第19回全国大会, 江別, 2023年7月

堀健一朗・倉田陽平, YouTubeにおける観光プロモーションの評価指標の提案～北海道の旅行動画を例とした広告効果計測～ 観光情報学会全国大会第19回全国大会, 江別, 2023年7月

金谷直政・倉田陽平, 宗教施設の観光対象化について 宗教施設の類型化と, 東京の神社の社格による観光対象化への影響 観光情報学会全国大会第19回全国大会, 江別, 2023年7月

報告書

日立財団倉田奨励金研究報告書第52集pp.76-84 倉田陽平「膨大な位置情報付きツイートから地域課題は見つかるか？」

図書

倉田陽平「タッチポイントの可能性 地域との交流生む仕掛けに知恵を」週刊トラベルジャーナル 2023年4月10日号

小笠原 悠 Yu OGASAWARA

学会発表

小笠原悠, 中村翔, 阪口昌彦, 成松宏人, BMI関連遺伝子情報を考慮した生活習慣評価へのAHP適用に関する考察, 日本OR学会意思決定法研究会, 2023/06/16

金正道, 小笠原悠, 実数値データに対する区間値線形回帰関数, 日本OR学会2023年秋季研究発表会, 2023/09/15

Yosuke Yamamoto, Yu Ogasawara, Kimitoshi Sato, Joint Pricing and Resource Allocation for Bundle Service of Island Region, The 23rd Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems, 2023/10/25.

相馬優樹, 小笠原悠, 小林 央美, コレスポンデンス分析を用いた小学校における負傷と発生場所との関連の「見える化」, 第82回日本公衆衛生学会総会ポスター発表, 2023/10/31

目代風, 東原実咲, 小笠原悠, 清水哲夫, 観光地のブランドロゴマークの認知と旅行者特性の関係について, 第38回日本観光研究学会全国大会, 2024/12/10

東原実咲, 小笠原悠, Wu Lingling Lingling, 清水哲夫, 2012年～2019 年を対象とした東京の観光公式サイト閲覧数によるベクトル自己回帰モデル, 第38回日本観光研究学会全国大会, 2024/12/10

Yosuke Yamamoto, Yu Ogasawara, Kimitoshi Sato, Sales in Nested Demand Structure, The 2023 Asian Conference of Management Science and Applications, 2023/12/16.

小笠原悠, 佐藤公俊, 周縁地域の2つのサービスを組み合わせせたバンドル商品の収益管理, 日本応用数学会第20回研究部会連合発表会, 2024/03/04

小笠原悠, 伊藤真理, 鈴木敦夫, 土谷隆, 「ヘルスケアのOR」研究部会2019-2023年度活動報告, 日本OR学会2024年春季研究発表会, 2024/03/07

金正道, 小笠原悠, 区間値データに対する区間値線形回帰関数, 日本OR学会2024年春季研究発表会, 2024/03/07

論文 査読付

Yosuke Yamamoto, Yu Ogasawara, Kimitoshi Sato (2023). Joint Pricing and Resource Allocation for Bundle Service of Island Region. Proceedings of The 23rd Asia Pacific Industrial Engineering and Management Systems.

論文 査読無し

中村 翔, 小笠原 悠, 成松 宏人, 包絡分析法の予防医学への応用の挑戦, オペレーションズ・リサーチ, 68(6), pp.294-298, 2023

Yu Ogasawara and Kimitoshi Sato (2023), Pricing and Allocation Problem of Bundle Products With Nested Demand Structure, Available at SSRN: <https://ssrn.com/abstract=4544649> or <http://dx.doi.org/10.2139/ssrn.4544649>

04

特定学術研究

Research Summary

4-1. 自然環境マネジメント領域

沼田 真也 Shinya NUMATA

2020年度～ SATREPS (地球規模の環境課題の解決に資する研究)
研究分担者「マレーシア国サラワク州の保護地域における熱帯雨林の
生物多様性活用システムの開発 (京大・市岡孝朗)」

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

継続課題

基盤研究B (一般) ツキノワグマの駆除地域での管理ユニット策定と絶滅
危機個体群での有害遺伝子の評価, 2022年度～2024年度

分担 新規採択

基盤研究B (一般) 森林性鳥類の渡りルートの追跡・モデル開発―夜間
照明と気候変動の影響評価・予測―, 2023年度～2027年度

- ◆ 環境研究総合推進費 (環境省)
- ◆ 水源地生態研究会 (水源地環境センター)
- ◆ 農林水産省農林水産政策研究所連携スキーム (農林水産省)
- ◆ SIP「スマートインフラマネジメントシステムの構築」 (内閣府)

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

科研費 若手研究: 樹皮下キクイムシの産卵選好性と寄主利用能力および
その地理的変異の解明, 2019年度～2023年度 (代表)

坂本 優紀 Yuki SAKAMOTO

若手研究: 「音楽する都市」における音楽の実践と資源化に関する地理
学的研究, 2022-2025年度 (代表)

基盤研究 (B): ライフスタイル型移住者の居住地選好からみた地域社会
の存立基盤, 2023-2025年度 (分担)

受託研究, 公益財団法人八王子市学園都市文化ふれあい財団, 八王子
市内アートフェスティバルの効果測定, 2022-2023年度 (代表)

分担

2022年度学術研究助成, 公益財団法人国土地理協会, 森林レンタル
事業がもたらす新たなライフスタイル像と森林経営・管理方法の解明,
2022-2023年度

分担

2022年度学術研究助成, 公益財団法人国土地理協会, 人・水・熱・音
からみた都市の水辺空間の総合的評価, 2022-2023年度

04

特定学術研究

Research Summary

4-2. 地域計画・マネジメント領域

清水 哲夫 Tetsuo SHIMIZU

基盤研究B「データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発」(研究代表者:清水哲夫, 2020～2022年度, 1年延長)

基盤研究B「地域観光政策評価技術のイノベーションー人流等ビッグデータによる政策効果の因果推論」(研究代表者:清水哲夫, 採択, 2024～2027年度)

基盤研究B「持続可能な観光のための戦略的オーバーツーリズム対処療法の構築」(研究代表者:岡本直久筑波大学教授, 2022～2025年度)

基盤研究C「行動変容トリガーの提供による近圏域旅行の潜在需要喚起に関する行動モデルの実証研究」(研究代表者:楽奕平芝浦工業大学准教授, 2023～2025年度)

東京都産業労働局観光部委託事業「観光経営人材育成事業」(実施代表者:清水哲夫, 2017～2023年度)

東京都産業労働局観光部委託事業「観光統計データおよびオウンドメディアに係るアクセスログ等の活用に関する研究」(実施代表者:清水哲夫, 2022～2023年度)

川原 晋 Susumu KAWAHARA

基盤B「観光地域づくり資するイベント・レガシーの戦略的形成に関する研究」2023年度～2026年度、研究代表者

基盤B「持続可能な観光地域形成パッケージの国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究」2022年度～2025年度、研究分担者(研究代表者:岡村祐 東京都立大学)

基盤B「文化遺産圏とそのエコロジカルなネットワークによる地域マネジメント実装の参与研究」2023年度～2026年度、研究分担者(研究代表者:佐藤滋 早稲田大学)

【受託研究:八王子市 拠点整備部市街地活性課】「黒堀キャンパスプロジェクト監修・製作・設置委託」, 受託組織:八王子花街黒堀キャンパスプロジェクト実行委員会, 2023.11 - 2024.3

岡村 祐 Yu OKAMURA

【採択状況:新規】

基盤研究(B):衰退観光地のリノベーションに向けた計画論的研究(代表 東洋大学 佐野浩祥), 研究代表者, R6-9

【採択状況:継続】

基盤研究(B):持続可能な観光地域形成パッケージの国際的技術移転とネットワーク形成に関する研究(代表 東京都立大学 岡村祐), 研究代表者, R4-7

基盤研究(B):ポスト・オーバーツーリズム期における脱成長型観光政策の実装に向けた包括的研究(代表 龍谷大学 阿部大輔), 研究分担者, R4-6

基盤研究(C):生活都市のビジョンの共実現と持続可能な観光の連動的な展開(代表 金沢工業大学 片桐由希子), 研究分担者, R2-4(R5まで延長)

基盤研究(C):都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性,(代表 東京都立大学 岡村祐), 研究代表者, H30-32(R5まで延長)

荒川区地域産業活性化研究補助金,日暮里繊維問屋街における地域ストーリーの構築とその発信・提供手法, 研究代表者, R5

04

特定学術研究

Research Summary

大平 悠季 Yuki OHIRA

科研費 若手研究:テレワーク普及下の社会経済活動の集積・分散メカニズムに関する数理モデル研究, 令和3-5年度(代表)

科研費 基盤研究(C):自殺予防因子の探索およびその普及と定着の方法に関する研究, 令和3-5年度(分担)

益子 智之 Tomoyuki MASHIKO

科研費 若手研究:イタリアにおける「共編集」概念を用いた都市デザイン手法の開発, 令和4年—7年度(代表)

科研費 基盤研究B:観光地域づくりに資するイベント・レガシーの戦略的形成に関する研究, 令和5年—8年度(分担)

科研費 基盤研究B:文化遺産圏とそのエコロジカルなネットワークによる地域マネジメント実装の参与研究, 令和5年—7年度(分担)

平田 徳恵 Norie HIRATA

科研費 若手研究:住民主体の観光地域づくり推進に向けた色の活用による地域学習プログラムに関する研究, 2022—2024年度(研究代表者)

3-3.

行動経営科学領域

相原 健郎 Kenro AIHARA

科研費 基盤研究(B)(一般): 観光実態把握のためのマイクロ流動把握のモデル化と方法論, 令和4-7年度(代表)

受託研究費(一般社団法人ソシオ・エンジン・プロジェクト): ミクロ行動把握による高齢者の福祉向上への活用とUAV連携の検討, 令和3-4年度(代表)

倉田 陽平 Yohei KURATA

【継続】科研費 基盤研究(C): 膨大なツイートから解き明かす種々の旅のリスクの地域性・時空間特性の分析, 2021-2025年度(代表)

【継続】日立財団 倉田奨励金: 膨大な位置情報付きツイートから地域課題は見つかるか?, 2022-2023年度(代表)

日原 勝也 Katsuya HIHARA

2023年度 研究代表・基盤研究(C): 「観光分野のデジタルプラットフォーム取引におけるリスクシェアリングに関する分析」, 2023-2025年度(代表)

2020年度 研究分担者 基盤研究(B): 「データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発」, 2020-2023年度(分担)

Wu Lingling Wu Lingling

科研費 基盤研究(C): Exploring the potential of virtual tourism as tourism substitute for people under travel constraints, 2022-2024(代表)

小笠原 悠 Yu OGASAWARA

継続:
レベニューマネジメントに基づくオーバーツーリズムの指標開発とその評価(若手研究)(代表者: 小笠原悠)

データフュージョンによる時空間解像度の高い地域観光統計整備手法の開発(基盤B)(代表者: 清水哲夫)(分担)

子どもの健全な発達を支援する学校ビッグデータを活用した最適な保健指導方法の開発(基盤C)(代表者: 相馬優樹)(分担)

公益財団法人東京観光財団: 「観光統計データ及びオウンドメディアに係るアクセスログ等の活用に関する研究」(研究担当者)

東広島市・広島大学: Town & Gown Office COMMONプロジェクト「現在の需要分布に合わせた消防車両と隊員の最適配備～サステナブルな消防力50年計画を目指して～」(研究協力者)

5-1. 所属学生

2023年度は学部生130名、大学院生54名の計184名（うち留学生は18名）が在籍した。

学部生

1年35名、2年31名、3年31名、4年33名が当学科に在籍した。

博士前期課程（修士課程）

修士課程1年13名うち留学生3名、
修士課程2年20名うち留学生4名、
が当学科に在籍した。

博士後期課程（博士課程）

博士課程1年10名うち留学生7名、
博士課程2年4名うち留学生3名、
博士課程3年7名うち留学生1名、
が当学科に在籍した。

5-2. 研究室への配属（指導教官）

各研究室所属の学生数

4年以上87名の学生の配属先研究室
（指導教官）は右表のとおりである。

領域	研究室	卒論生	修士課程	博士課程	計
自然	沼田 真也	2	8	8	18
自然	仁平 尊明	5	1	2	8
自然	大澤 剛士	3	2	3	8
自然	坂本 優紀	1	0	0	1
計画	清水 哲夫	4	4	4	12
計画	川原 晋	4	5	3	12
計画	岡村 祐	3	3	1	7
計画	益子 智之	1	0	0	1
行動経営	相原 健郎	4	1	0	5
行動経営	日原 勝也	1	3	0	4
行動経営	倉田 陽平	2	5	0	7
行動経営	Wu Lingling	2	2	0	4

5-3. 学位論文

修士論文

所定の審査を受け、下表に示す18名の修士論文が合格した。

氏名	論文タイトル	主査
Davaajargal Dolgion	スマート・コンタクトレスホテルの利用意向の分析(コロナ禍による影響も踏まえて)	日原 勝也
Maulana Bayu	A Study on Factors for Changes in Travel Behavior by Applying MaaS in Jakarta Metropolitan Area	清水 哲夫
赤石 旺之	日本におけるMaaS実証事業の特徴 ～都市特性とサービス形態から見た今後の展開への示唆～	沼田 真也
篠 朱莉	Factors influencing attitudes and tolerance toward long-tailed macaques	岡村 祐
Afrina Umairah Binti Muhamad Rahim	道の駅を核とした「小さな拠点づくり」の可能性～ 群馬県川場村「川場田園プラザ」の観光利用と生活利用に着目して～	沼田 真也
猪口 あゆな	How does animal-dislike differ from biophobia?	倉田 陽平
齊藤 凌太	ポピュラー音楽観光による地域遺産の継承可能性に関する検討	沼田 真也
雀部 爽太	滞在人口データを用いた訪問客による廃棄物排出量原単位推計の試み	清水 哲夫
田中 魁人	JR「みどりの窓口」の営業終了駅における特性の分析	日原 勝也
千葉 優美子	東日本大震災後に創設された商業集積支援策が事業者の生業の継続にもたらす効果と課題～非被災事業者を含む商業集積を意図した商業施設等復興整備補助事業に着目して～	川原 晋
党 浩亮	エスニックツーリズムの対象としての西安回族街の変容—店舗の変化と観光の文脈に着目して—	岡村 祐
那珂 知美	国産蜂蜜生産量の変動に影響を与える要因	沼田 真也
西村 憲人	電子スタンプラリーにおけるGPSやNFCや二次元バーコードといったスタンプ取得方式がユーザー行動に与える影響の評価	倉田 陽平
東原 実咲	観光客の感情の変化とその総合評価への影響の分析	Wu Lingling
伏原 穂高	自転車プローブデータを活用した自転車利用者の通行空間特性に関する分析	清水 哲夫
宮内 一輝	自然観光地形成のメカニズム-人と生態系の関係が生み出す文化的サービス-	大澤 剛士
吉岡 鴻志	メイン・サブサービスを組み合わせたバンドルに対する顧客の予約行動の研究-小豆島への高速船と島内のレンタカーを例にして-	Wu Lingling
和田 拓将	温泉街の魅力向上のための法定河川区域の特徴に応じた利活用に関する研究～その空間的特徴とイベント等活用時の空間変化に着目して～	川原 晋

5-3. 学位論文

卒業論文 01

所定の審査を受け、下表に示す30名が卒業論文を提出した

氏名	論文タイトル	主査
鶴岡 杏海	道路構造や都市構造の違いが電動キックボードの走行に及ぼす影響について	相原 健郎
平野 一真	移動軌跡データ活用に向けたデータ標準形の提案と移動者属性の推定	相原 健郎
鈴木 悠里	温泉地のスナックが地域コミュニティの形成において果たす役割	沼田 真也
三瓶 素乃	千葉県富津市における陸上競技合宿地形成に関する研究	岡村 祐
中本 夏生	"日本の工芸産地工場におけるストーリー消費需要への対応に関する研究～自社商品開発とその生産・流通システムに着目して"	川原 晋
大谷 明日香	宿泊事業者が設立した組織による着地型旅行商品造成事業の地域還元意識と事業継続性に関する研究ー(株)DMC天童温泉が行う体験ツアーを事例としてー	川原 晋
猪俣 彪	八王子まつりの変容から読み取れる市民と祭りの関係	仁平 尊明
谷口 晃晴	観光地域づくり法人(DMO)による観光地域づくり活動のSROI 評価の試み	清水 哲夫
京野 由依	日本の国立公園で行われてきた学術的な研究活動の現状と特徴	沼田 真也
牧田 奏	さいたま市における住民の外出行動の分析-認知距離情報を含めた複数因子による外出意向評価を軸として-	相原 健郎
島内 梨音	耕作放棄の発生が里山のクモに及ぼす影響	大澤 剛士
小嶋 海輝	阿蘇地域における草原の再認識活動から見る資源集成制度の関係性	岡村 祐
小林 寛実	神奈川県横浜市鶴見区における移民同士の交流に関する研究-沖縄出身者、南米出身者を対象として-	仁平 尊明
新井 温大	サービス形態に着目した我が国のデマンド交通の類型化とその地域特性に関する研究	清水 哲夫
盛 拓貴	周囲の音環境がキンヒバリの生息地選択に及ぼす影響	大澤 剛士
根本 健吾	東京都内地域における OTA 宿泊価格の構造に関する時系列分析ーCOVID-19 パンデミックによる構造変化を踏まえてー	日原 勝也

5-3. 学位論文

卒業論文 02

氏名	論文タイトル	主査
吉本 幸大	岐阜県恵那・中津川地域におけるクリ栽培の発展にみる農村空間の商品化	仁平 尊明
黒澤 知泰	観光地における公共交通乗り継ぎ時の待ち時間の負担感とその低減方策の効果に関する研究	清水 哲夫
山名 翔	ダム建設による集落集団移転におけるコミュニティの継承ーハッ場ダム建設により移転した川原湯地区の湯かけ祭りに着目してー	岡村 祐
大川 萌恵	東京都国立市周辺における子ども向け農業体験事業の課題と役割	仁平 尊明
小川 史弥	行政計画に位置づけられない絵中心の計画図書が公民連携の地域づくりに発揮する効果-八王子市中心市街地の将来像「景観絵本」とその実現を調査対象として-	川原 晋
吉村 香乃	無形商品のマーケティングプラセボ効果の有効性に関する研究ーオンラインツアーを事例としてー	Wu Lingling
石川 瑞那	波及の時空間特性に着目した大規模イベントの定量的効果評価方法の試行ー長岡まつり花火大会を対象としてー	清水 哲夫
中田 怜奈	マルチエージェントシミュレーションを用いたシームレスな交通結節点の分析-自転車に着目して-	相原 健老
菅原 まどか	欧州文化首都におけるイベントレガシーの形成に関する研究ー継続的なイベントを展開するLeeuwarden-Friesland2018を事例としてー	益子 智之
鈴木 一生	ナイトライフ観光における合意形成ー阿智村の星空ツーリズムを事例として	坂本 優紀
内矢 智貴	複合型商店街施設の開業前後におけるイベントを通じた出店者コミュニティの誘発・形成に与える影響-下北線路街 BONUS TRACK を事例として-	川原 晋
庄野 貴人	意図せず観光できなかった経験の満足度とその経験への対応策の提案	倉田 陽平
齊藤 莉来	時系列モデルを用いた日本のインバウンド需要予測に関する研究	Wu Lingling
永井 祥生	都市緑地における樹木3種の微量金属元素吸収能力	大澤 剛士

06 社会貢献 Social contributions

6-1. 自然環境マネジメント領域

沼田 真也 Shinya NUMATA

- ◆ 国際自然保護連合 委員、
- ◆ 世界保護地域委員会 委員
観光と保護地域専門家グループ メンバー
- ◆ 日本生態学会キャリア支援専門委員会 委員
- ◆ 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター
専門調査員
- ◆ 八王子市環境審議会 委員・会長
- ◆ 多摩市みどり環境審議会 委員・会長
- ◆ 八王子市都市計画マスタープラン改定懇談会 委員
- ◆ 八王子市宮嶽池整備方針策定検討会 座長
- ◆ IAESTE(International Association for the Exchange of Students for
Technical Experience) インターン生の受け入れ(2023年9月～12月)
- ◆ その他、審査、アドバイス、外部人事評価委員等

大澤 剛士 Takeshi OSAWA

- ◆ 日本生態学会 和文誌 編集委員
- ◆ 日本生態学会第二和文誌 編集幹事
- ◆ 日本生態学会 英文誌 編集幹事(Associate Editor in Chief)
- ◆ 環境省 気候変動適応地域づくり推進事業 東北地域アドバイザー
- ◆ 林野庁 小笠原諸島における森林生態系保全のための技術開発
検討委員
- ◆ 小笠原支庁 鷲島列島植生回復調査検討会 委員
- ◆ 国土交通省 河川水辺の国勢調査に関する検討会 委員 DXワーキング座長
- ◆ 国立情報学研究所 学術研究プラットフォーム運営・連携本部研究データ
基盤運営委員会 委員
- ◆ 文部科学省NBRP事業 日本生物多様性情報イニシアチブ(JBIF)
運営委員会 委員

高木 悦郎 Etsuro TAKAGI

- ◆ Journal of Forest Research, Editor

坂本 優紀 Yuki SAKAMOTO

- ◆ 日本地理学会, 総務専門委員
- ◆ 日本地理学会, 2023年春季学術大会実行委員
- ◆ 地理空間学会, 集会委員

6-2. 地域計画・マネジメント領域

清水 哲夫 Shimizu Tetsuo

学外役職

- ◆ (公社)日本観光振興協会総合調査研究所所長兼
日本観光振興アカデミー学長

学会活動

- ◆ 交通工学研究会査読委員会委員
- ◆ 日本観光研究学会理事兼編集委員会委員長
- ◆ 土木学会土木計画学研究委員会多様な地域課題を解決する道路交通・ITS事業形成に向けた研究ネットワーク構築小委員会委員長
- ◆ 土木学会土木計画学研究委員会社会課題解決のためのゲーミフィケーション活用研究小委員会委員
- ◆ 土木学会土木計画学研究委員会汎加工された位置情報履歴データの有効活用に関する研究小委員会副委員長

有識者委員等

- ◆ カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリッション地域ゼロカーボンWG東京都立大学代表(文部科学省, 経済産業省, 環境省)
- ◆ 観光統計の整備に関する検討懇談会委員(観光庁)
- ◆ 地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業に関する事業支援有識者(観光庁)
- ◆ インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた観光コンテンツ造成事業支援有識者(観光庁)
- ◆ 観光圏整備に関する検討会委員長(観光庁)
- ◆ 地域道路経済戦略調査研究会委員(国土交通省道路局)
- ◆ インフラツーリズム有識者懇談会座長(国土交通省総合政策局)
- ◆ 南大沢スマートシティ協議会座長
- ◆ Digital Innovation City協議会ライブ・エンタメ&モビリティ・物流プロジェクトチーム委員(東京都)
- ◆ 都営交通の経営に関する有識者会議座長(東京都)
- ◆ 多摩ニュータウンの新たな再生方針検討委員会委員(東京都)
- ◆ 恩賜上野動物園新たな乗り物選定審査委員会(東京都)
- ◆ 多摩都市モノレール町田方面延伸沿線まちづくり検討会会長(町田市・多摩市)
- ◆ 浅草地区まちづくりビジョン策定委員会副会長兼基盤整備部会長(台東区)
- ◆ 宮島口における円滑な駐車及び交通誘導検討会委員(広島県)
- ◆ 町田市交通安全行動計画策定および推進委員会委員長
- ◆ 大田区交通政策基本計画推進協議会副会長
- ◆ 観光MaaS協議会委員(神戸市)
- ◆ 地域連携推進団体協議会アドバイザー((一財)国土計画協会)
- ◆ 全国観光圏推進協議会アドバイザー
- ◆ ブランド戦略会議およびインバウンド・二次交通検討会議アドバイザー((一社)ハケ岳ツーリズムマネジメント)
- ◆ サステナブルツーリズム推進センター委員((一財)アジア太平洋観光交流センター)
- ◆ ツーリズムEXPOジャパン2023実行委員会委員兼国際会議部会長
- ◆ ツーリズムEXPOジャパン2024実行委員会委員兼国際会議部会長
- ◆ 観光・インバウンド専門委員会学識委員(日本商工会議所)
- ◆ デジタル観光統計整備検討委員会座長((公社)日本観光振興協会)
- ◆ 首都高交通量推計手法検討委員会委員兼幹事長((株)首都高速道路)
- ◆ 横浜市観光動態消費動向調査有識者意見聴取会外部有識者((株)サーベイリサーチセンター)
- ◆ 歴史的資源を活用した観光まちづくりの推進事業検討会構成員(WAMazing((株), 国土交通省中国運輸局)

講演

- ◆ アフターコロナの地域づくりとITS(自動運転等)等の活用～交通と観光の現場からの視点で～, 一般財団法人道路新産業開発機構令和5年度講演会, 2023年7月25日
- ◆ トークセッションパネリスト, DMO観光地域づくりセミナー((公社)日本観光振興協会), 2024年2月21日

講座・研修

- ◆ 観光地域づくりマネージャーステップアップ研修(全国観光圏推進協議会), 全3回
- ◆ ふくおか観光地域づくり共創塾観光戦略策定コース(福岡県)第3回「DMOに必要なデータ力とは?」, 2023年7月4日, 福岡
- ◆ 令和5年度専門課程インフラツーリズム研修(国土交通省国土交通大学校)「観光政策とインフラツーリズム」, 2023年7月7日
- ◆ 観光経営トップセミナー(東京都立大学×(公社)日本観光振興協会), 2023年10月16日, 17日, 11月6日, 7日
- ◆ 東京都立大学オープンユニバーシティ「観光を理解するためのデータ～意識調査・統計・ビッグデータのこれまでとこれから～観光客や地域の観光動向を把握するデータ」, 2023年11月16日, 東京
- ◆ 第68回土木計画学研究発表会スペシャルセッション「ITSをプロジェクト化する研究と教育」オーガナイザー, 2023年11月26日, 東京都立大学
- ◆ 2023年度東京都高度観光経営人材育成講座(東京都立大学)「観光デジタルデータを読み解く～その表示・解析の方法」, 2024年1月6日, 20日, 東京
- ◆ 令和5年度広域周遊観光促進に資する観光地域づくりマネージャー育成短期セミナー(観光庁), 2024年1月29日, 30日, 2月13日, 14日, 東京
- ◆ 2023年度東京都高度観光経営人材育成講座(東京都立大学)「観光デジタルデータを読み解く～その解析・解釈の方法」, 2024年2月3日, 10日, 東京

メディア掲載

- ◆ シン・インフラツーリズム, 日経トレンディ2023年7月号
- ◆ 観光立国の再興 展望と課題, 公明新聞, 2023年9月18日
- ◆ 通もうなるインフラツーリズムは?, 日経コンストラクション2023年10月号土木旅特集
- ◆ 都心の通勤, 船で快適, 読売新聞(夕刊), 2023年11月10日

川原 晋 Susumu KAWAHARA

学会活動等

- ◆ 日本建築学会 都市計画本委員会「観光地リノベーション小委員会アウトリーチワーキンググループ委員

行政委員会委員等

- ◆ 観光庁「ロングストーリーによる地域のコンテンツの連携促進に向けた実証調査」有識者委員会 委員長
- ◆ 横浜市 地域まちづくり推進委員会 まち普請事業部会 委員(地域まちづくり課)
- ◆ 八王子市 景観審議会委員(まちなみ景観課)
- ◆ 八王子市 景観アドバイザー(まちなみ景観課)
- ◆ 八王子市 小比企地区の農地を活かしたまちづくりに関する地域懇談会 座長(都市計画課)
- ◆ 町田市 町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画 改定検討委員会 委員長
- ◆ 町田市 観光まちづくり推進委員会 副委員長
- ◆ 藤沢市 景観審議会委員(計画建築部 景観課)
- ◆ 箱根町 史跡箱根旧街道保存整備基本計画策定委員会 委員

市民まちづくり

- ◆ 八王子中町花街まちづくり協議会 会員(東京都八王子市内)
- ◆ 一般社団法人 エリアマネジメント南山 理事 (東京都稲城市内)
- ◆ 一般社団法人 大田クリエイティブタウンセンター理事 (東京都大田区内)

06

社会貢献 Social contributions

岡村 祐 Yu OKAMURA

講師・講演

- ◆ (非常勤講師) 駒澤大学「現代社会と都市論Ⅱ」
- ◆ (講演) 課題解決型プロジェクト研修「キックオフミーティング」, 株式会社東京臨海ホールディングス, 2023/5/23
- ◆ (講演) 西安交通大学オンライン講義, 2023/6/20
- ◆ (講演) 東京都立大学オープンユニバーシティ特別区プレミアム講座, 2023/11/15

自治体の委員会等

- ◆ 南大沢スマートシティ協議会委員、まちの賑わい部会会長
- ◆ 東京都デジタルサービス局 令和6年度西新宿スマートシティ協議会運営業務委託技術審査委員会委員
- ◆ 東京都デジタルサービス局 令和6年度西新宿エリアにおけるスマートシティイベントの企画・運営業務委託に係る技術審査委員会委員
- ◆ 東京都政策企画局 デジタルコンテンツを活用した魅力発信に係るデジタル空間制作等委託技術審査委員会委員
- ◆ 東京都政策企画局 デジタルコンテンツを活用した魅力発信に係るデジタル空間運営等委託技術審査委員会委員
- ◆ 山梨県韮崎市文化財保存活用施設基本構想策定委員会委員
- ◆ 山梨県韮崎市 史跡新府城跡保存整備委員会委員
- ◆ 東京都台東区浅草地区まちづくりビジョン策定委員会委員／同まちづくり部会会長
- ◆ 将来にわたって旅行者を惹きつける地域・日本の新たなレガシー形成事業
- ◆ 「浅草凌雲閣(浅草十二階)の復元による浅草六区の観光拠点化に向けて」検討会委員
- ◆ 東京都調布市都市計画マスタープラン策定検討委員会委員
- ◆ 東京都調布市 都市計画審議会委員
- ◆ 東京都武蔵村山市榎地区まちづくりアドバイザー
- ◆ 神奈川県茅ヶ崎市 景観アドバイザー

学会活動

- ◆ 日本建築学会(観光地リノベーション小委員会委員)
- ◆ 日本観光研究学会(学術委員会委員)
- ◆ 日本都市計画学会
- ◆ 日本造園学会
- ◆ 日本イコモス国内委員会(広報委員会)

その他

- ◆ 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター 代表副理事
- ◆ (イベント企画)「おおたオープンファクトリー2023」, おおたオープンファクトリー実行会主催, 2023/11/25
- ◆ 多摩都市モノレール八王子ルート整備促進協議会主催イベントにかかるウォーキングマップの制作

大平 悠季 Yuki OHIRA

- ◆ 八王子市開発審査会 委員
- ◆ 土木学会土木計画学研究委員会 多様な地域課題を解決する道路交通・ITS事業形成に向けた研究ネットワーク構築小委員会 幹事長
- ◆ 土木学会土木計画学研究委員会汎化加工された位置情報履歴データの有効活用に関する研究小委員会 委員
- ◆ 土木学会誌編集委員会 委員
- ◆ Asian Transport Studies, Assistant Editor

益子 智之 Tomoyuki MASHIKO

講師・講演

- ◆ (講師) 東京大学「復興デザイン学」2023/5
- ◆ (講師) 次世代都市国際連携研究機構公開セミナー「水沿居住の日伊比較」, 「イタリア・フェッラーラの水際と生活文化」, 2023/7
- ◆ (講師) アーバンデザイン・スマートシティスクール松山2023, 「地域復興デザイン 災害伝承、観光ツアーの構想と実践」, 2023/7

学会活動

- ◆ 日本建築学会 [若手奨励] 特別研究委員会 幹事
- ◆ 日本建築学会 グローバルリスク適応・回生型空間再生WG 委員
- ◆ 日本建築学会 観光地リノベーション小委員会 委員
- ◆ 復興デザイン会議 全国大会実行委員会 委員
- ◆ U30復興デザインコンペ審査委員会 事務局

社会活動

- ◆ 早稲田大学 総合研究機構 都市・地域研究所 戸塚協働復興活動研究会 事務局
- ◆ 八王子市 小比企地区の農地を活かしたまちづくりに関する地域懇談会 アドバイザー
- ◆ 八王子市 震災復興まちづくり訓練 アドバイザー

平田 徳恵 Norie HIRATA

- ◆ 日本建築学会 住まい・まちづくり支援建築会議 運営委員会委員・情報事業部会(幹事)
- ◆ 八王子市まちづくりアドバイザー
- ◆ 千葉県建築士会 夷隅支部SUMIエコミュージアム推進部会アドバイザー
- ◆ 一般社団法人日本ブルーフラッグ協会アドバイザー

06 社会貢献 Social contributions

6-3. 行動経営科学領域

相原 健郎 Kenro AIHARA

- ◆ ACM UMAP Program Committee
- ◆ 米沢市 アドバイザー
- ◆ 南大沢スマートシティ協議会 アドバイザー

日原 勝也 Katsuya HIHARA

- ◆ 東京大学公共政策大学院(国際観光交通政策研究ユニット(ITTPU))の客員研究員として、交通・社会インフラを中心とする公共政策分野の大学院レベルの教育研究を支援・連携中
- ◆ 一般社団法人 航空イノベーション推進協議会 AIDA(代表理事:鈴木真二東大名誉教授)において、会員として、地域航空検討委員会、人材育成検討委員会の委員をと止め、我が国の航空輸送システムに関するイノベーション研究教員を支援中
- ◆ 東京都財務局 大学研究者による事業提案制度に係る審査委員/東京都生活文化スポーツ局 技術審査委員会委員
- ◆ 多摩信用金庫を核として、シェアリングエコノミーについて勉強会を立ち上げ、関東経産局、八王子市、日野市、国分寺市、UR、富士通他の関係者と、観光による地域振興の研究を展開中。

倉田 洋平 Yohei KURATA

- ◆ GISDayTokyo2023(本学市民講座)講師
- ◆ 愛知県立K高校に自作ツール(だれでもガイド)の教材提供

小笠原 悠 Yu OGASAWARA

- ◆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会「ヘルスケアのOR」研究部会幹事

Wu Lingling Wu Lingling

- ◆ 土木計画学研究委員会・学術小委員会幹事

7-2. 地域計画・マネジメント領域

name	title
川原 晋	令和5年度国土交通省 都市景観大賞（景観まちづくり活動・教育部門）の優秀賞受賞,「景観絵本『八王子まちなか 景観みらいものがたり』〜八王子中心市街地のフロートビジョンと実現に向けたアクション〜」の取組み,2023年6月発表, 受賞団体:八王子市,八王子駅周辺の未来の景観を考えるワークショップ,景観デザイン会議。 (川原はディレクターとして参画。川原研はアクションの中核主体として参画)
岡村 祐	指導学生が受賞 2023年度日本建築学会若手優秀発表賞 ・菅井純也:空間・産業特性を生かした問屋街の都市更新手法に関する研究 一横山町・馬喰町 問屋街における同業者組織を中心とした取り組みに着目してー ・渡辺安菜:長野県戸隠における御師文化を活かした観光への取り組みとその文化継承への影響



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学



令和5年度（2023年度）東京都立大学 都市環境学部 観光科学科、都市環境科学研究科 観光科学域 学位記授与式

2024/03/21



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
東京都立大学



観光を科学する

TOURISM
SCIENCE

東京都立大学 都市環境学部 観光科学科

東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

2023 ANNUAL REPORT

<http://www.comp.tmu.ac.jp/tourism/>

編集・発行：東京都立大学 都市環境科学研究科観光科学域

発行日：2024年4月1日

内容に関するお問い合わせ

東京都立大学 都市環境科学研究科観光科学域

電話：042-677-2664

Eメール：tourism-admin-ml@ml.tmu.ac.jp

